

すずむじ

第16巻・第2.3.4合併号
(通巻100号 記念号)

1966年12月

倉敷昆虫同好会

目 次

深谷昌次：創刊100号おめでとう	22
石原 保：思い出すまに	23
佐藤清明：むかしとんぼ	25
大野正男：日本産Aphthona属ハムシ類の覚え書き	26
重井 博：北八ヶ岳奥蓼科のカミキリ	32
道信 順：岡山県北部のカミキリムシ採集品目録(第三報)	33
水野弘造：伯耆大山、天牛採集行メモ	34
青野孝昭：岡山県未記録の天牛及び既報告種の訂正	36
脇本 浩：大山産カミキリムシ類採集品目録	38
赤枝一弘：本年県下で採集したスズメガについて	41
小野 洋・近藤光宏：ニシキキンカメムシの生態(予報)	42
楳本精二：岡山県未記録の蛾	46
道信 順：岡山県北部における蛾類分布資料	60
赤枝一弘：西大寺産スズメガ発生状況	67
近藤光宏：アケビコソボウハバチ羽化に成功	69
近藤光宏：アオイラガの寄生蜂	70
林 憲一：トンボ雑記	72
おとしふみ	
脇本 浩：ヒゲナガカミキリの目撃	40
脇本 浩：タカサゴシロカミキリの記録	40
脇本 浩：アカネカミキリの岡山県内での記録	40
近藤要一：クロコノマを総社市で採る	59
田辺恒彰：モリヤママドガ岡山市に産す	68
中村具見：ダイセンシジミ臥牛山に産す	68
脇本 浩：シロトラカミキリを穴戸山神社で採る	71
脇本 浩：臥牛山のウンモンテシトウ	71
脇本 浩：ツツジの花からミヤマルリハナカミキリを採る	74
脇本 浩：津川でトビイロカミキリを採る	74
水野弘造：Maddester 雑言録(5)	75
1966年採集会報告	66
会 報(会員名簿, その他)	78

創刊100号おめでとう

深 谷 昌 次

(東京教育大学農学部応用動物学教室)

私はいつも思うのですが、あの有名な大原美術館は何も倉敷になければならないものとはいえません。京都か東京にあつた方が、現状ではもつともつとこの国の文化に貢献するのではないのでしょうか。大原総一郎さんも「美術館は倉敷市にあるけれど当分は市民の文化向上に直接役立つとは思われない。」といっていました。美術館に関する限りは全くその通りなのですが、倉敷昆虫同好会とその機関誌“すずむし”は間違いなく郷土に根を張つた文化的所産ですから、倉敷とは切つても切れない縁があるわけです。

“すずむし”が創刊100号を迎えるということを知り、今さらよくも続いたものだと驚くのですが、一方また当然のことだとも思われるのです。それにつけても回想されるのは、終戦直後佐藤清明先生を盟主に、何回となく催された採集会ではは博物コンクールのことどもです。そこにはいつも、とびぬけて熱心な特定の少年達が活躍していたのですがそうした方々のたてこもつた城がこの同好会であつたわけです。だからこの会も雑誌もほんとうに倉敷のふところに育つべくして育つてきた立派な文化財だとも私は思うのです。このように健全な背景のもとに発展をしてきた倉敷昆虫同好会が、今後ますます伸びるであろうことに疑問の余地はありません。

ところでよくアマチュアのやること、とくにその研究には限界があるといわれます。しかし私はアマチュアに宿る創造的精神が真理の解明にどれだけ寄与できるか、これは考古学の話ですが、ここに一つの挿話を紹介しましょう。

「昭和21年10月末のある日、群馬県の廉川竹沢村道を歩いていた行商姿の一青年が、赤土層の上くずれから、黒曜石の石片を2つひろいあげました。この青年の名は相沢忠洋といい、当時20歳でした。その頃、日本の文化の一番古い遺跡は、赤土層の上をおおう黒土の中にだけうずもれていて赤土層の中には決して存在しないと信じられていたのです。従つてオーソドックスな地質学者は赤土層に目を向けることをしませんでした。赤土はいうまでもなく、関東火山灰層ともいわれるように、その昔、関東平野のまわりにそびえる火山が噴火したときに降つてきた火山灰で、このような火山灰が降る中で、人間はもちろんのこと生物は生きていられないという風に考えられていたのです。相沢青年はアマチュアの純粋な眼で事実を追及し、ついで昭和24年6月、同じ岩宿の赤土層から石槍を1個採集することに成功したのです。そしてこの石槍こそは日本の旧石器文化というマンモス象にも匹敵する獲物の心臓につきたてられた最初の槍先だつたのです(岩波：日本列島より)考古学の一アマチュアによつて、日本に人類が住みついた時期が一挙に数万年もさかのぼつて考えられるようになりました。

私は通俗講演などを頼まれるとそのテーマにはこだわらずにこの話しを最初に紹介することにしています。つまりプロはアマに学べといたいのです。昆虫の研究については全く同じことがいえると思うのです。創刊号に私もアマチュア万歳と書きましたが、創刊100号おめでどうの祝詞も「アマチュア万歳」で終りになりました。

思い出すままに

石 原 保

(愛媛大学農学部)

“すずむし”が1回の休刊もなく第100号の記念号刊行の運びとなったことに、まず心からの敬意と祝意を表したい。中国地方は私にとっても懐しい所であり、乞われるままに何か記念号の原稿をとったが適当な題が見つからない。といって、せっかくの依頼を辞退するのも悪いような気がして、思い出と共に、倉敷昆虫同好会に対する将来の希望を述べることにした。

あえて記すまでもない事ながら昆虫の種は多い。世界の既知種はすでに90万に近く、しかも年ごとに増加している。日本で知られる昆虫も5万種前後になるであろう。これらのうち生活史の多少とも判明しているのはうち僅かである。昆虫の世界には研究を要する未開の分野がいかに多いかは容易に想像されよう。ところで昆虫の研究を職業とする者、具体的には大学の昆虫研究室や農業試験場の害虫部などの職員、いわゆるプロの数はきわめて少なく、あまつさえ公務員試験に合格する昆虫研究者が少ないため、農林省や農業試験場の昆虫関係の部は欠員も相当多い実状である。とうてい昆虫の研究はプロだけでは間に合わず、手に負えないことは自明の理である。したがってアマ、すなわち昆虫の研究を本職としない人たちが趣味として昆虫を研究し、発表された結果が昆虫学界に及ぼす貢献は高く評価されることになる。その意味で中国地方では広島の広島虫の会と共に、倉敷昆虫同好会の真摯な活動に敬意を払うと共にいろいろ期待したいのである。

私の中学3年生の時には、芸備線は備後西条が終点だった。中国山脈ではオオヒカゲ、エゾハルゼミなど、当時の私にとっては思いがけない種が採れたので、休暇には必ず中国山脈での採集を目指した。食糧も入れた重いリュックサックを担いで、西条から採集しながら歩いて中国山脈を越え、翌々日伯備線の生山駅に達し、続いて伯耆大山へ向ったのも苦しくも楽しい思い出である。その後、芸備線は小奴可駅まで延びたので、小奴可から備後道後山へ登った時のこと、トラックの通るほこりっぽい路で、路傍の花に飛来したクロシジミ、稲田の間からヒラヒラ飛び出したギンイチモンジセセリなどを網に入れた感激の記憶は今だに鮮明である。数年後、芸備線はさらに延び、備中神代駅で伯備線と連絡することになったので、道後山で採集した後、伯耆大山へ足を伸ばすのに便利になった。神代

駅へ向かうノロノロした汽車の窓から、線路わきに咲くオカトラノオの花に來ているスジボソヤマキチヨウの姿を見ることもできた。神代駅のホームで下りの汽車を待つ間、1本の草もない鉄道線路の石コロの間でさかんに鳴いていたカワラスズも当時の私にとって驚異だった。中国の山々は次々に、書物で見ていた昆虫の生きた実物を示して私を驚愕させた。私が中国山脈の魅力にとりつかれたのも当然のことであつた。

中学生時代、私と共に氣違ひのように昆虫採集に熱中した者に数年後に会う機会があつて標本のことを尋ねると、虫に食われたりしてムダにした者が多い。苦労して集めたのにいささか残念といった感を表明するのが普通である。私もまた他の方面に向かい、プロにならなかつたら同様であつたであろう。現在の立場から考えると、昆虫標本は私有すべきものではないと思う。その永久保存には大へんな配慮を必要とし、一時の油断で台なしにしてしまうから、本人が絶えずその維持管理に注意できない立場になれば、博物館や大学の標本室等に移管すべきであろう。人間はだれも所有慾はあるが、少なくとも珍奇種の標本は、學術的にも貴重な資料であるから、それらはいわば公有とし、その保存には同好会が責任を負うべきものと思う。もちろんこれらの珍奇種の標本は会員諸氏の自由な研究の便に供し、一方、会員諸氏はいたづらに珍奇種を追求するより、昆虫の生理生態的分野にも研究の目を向けて頂きたいものである。飼育技術など、簡単にいうと飼育のコツなども今後の重要な研究課題である。すりえによる野鳥の飼育など世界に誇るべき日本人が考案した野鳥飼育技術である。

備後道後山は私にとって思い出深い山だったので数年前訪れてみた。ところがガツカリというより全く啞然としてしまった。道後山は広島県立公園に指定され、初夏のレンゲツツジの美観、冬のスキーを標榜して観光客誘致に努めているが、自然保護には一顧もされていらないようである。木は措しげもなくどンドン伐り倒されて、山の家の燃料用の薪として山と積まれ、谷あいのかつての森林は全くとおかげを止どめず、木はある限り伐って燃料とされるものようである。したがって野鳥もほとんど居らず、かつてはノジコの繁殖地として小鳥屋の周では有名だった道後山で耳にしたのは1羽のイカルの囀声だけであつた。スキーには木はない方がよいかも知れないが、道後山には學術上貴重な植物も少なくない。伯耆大山が原産地であるダイセンキスミレ、南限とされるシラタマノキなど、これらの保護を原地の人たちは考えないのであろうか。有名な日本産スズランも山麓地帯の各所に自生していたが、四国にはないからこの辺が南限であらう。見つけ次第、地元の人がおみやげ用に掘り採っているが、いずれ絶滅してしまうであらう。もちろん昆虫にしても同様である。珍奇種の多数の私有を誇示するごときは愚の骨頂である。本当に昆虫を愛する者ならば、タネを絶やすことを望まないと同時に、その生息環境の保存に思を致すべきである。開拓が進み自然林の減少と相まって、農薬の普及は昆虫の多くの種を絶滅の一步前に置いている今日、少なくとも県立公園くらい、昔ながらの植物相や昆虫相を保存するよう配慮するのが関係者のつとめではなからうか。またわからず屋の関係者にはわからずよう運動するのも今後の各地の同好会の仕事のひとつでなければならぬと思う。

要するに各地の昆虫同好会は、従来のように地方の昆虫相の解明のみならず、蝶蛾類や甲虫類の外の一般の昆虫についても、その生理生態的方面の研究の開発に努力して頂くと共に、地方の昆虫相を含めて生物相の保存をも目標として頂きたいものである。

むかしとんぼ

佐藤清明

(岡山県浅口郡里庄町里見)

(1) 本会創設の頃

昭和26年(1951)小野、青野、近藤、友野の諸兄によつて「すずむし」が生れてから100冊になつたという。昭和26年といえは戦後6年目、岡山大学が発足したのはその二年前で、業績高かつた三木知事が就任したのがちょうどその年、池田家へ厚子夫人を迎えたのはその1年あとになる。

私は当時、大原農研で、岡山博物同好会というものを作つていて、これは昭和20年12月に始めたもので、幸にも多くの若い方々が喜んで参加して下さり、当時学生であつた上記の諸兄はみな熱心な常連であつた。当時は毎月例会を開いておつたので、第3回例会には重井博氏が「病原としてのノミ」と題して御講演下さつておる。毎年1回ずつ博物コンクールというものを開いて大原総一郎氏の賛助を得て、大原賞を設けたものであつた。

第2回のコンクールを開いたのが昭和23年で、そのとき小野洋氏はヒオドシテヨウの生活史を演じて入賞して下さつた、その頃から「松の樹の昆虫の研究」調査に精魂をかたむけ、小野氏は青野氏と共同して、寒い冬の間じゆう、かつて春川博士がヒメシクイの研究に終始した歴史的の向山に登つて温度の測定を続け、これは昭和24年4月、東京昆虫祭の全国大会に私の会から出て下さつて有楽町の読売会館で演じ最高位一等に入選した。

昭和25年4月に岡山では産業博覧会が開かれ、当時学習院高等科学生であつた皇太子殿下が修学旅行で御来岡、博覧会を見物された節に、年令のほぼ同じ学生の研究として席上資料を展示して両氏は御説明を申しあげた。

本誌の発行はそのちょうど翌年にあたる。

岡山博物同好会当時の寄書



守山鴻三氏を迎えて例会を開いたとき



楚南仁博氏を迎えて例会を開いたとき

日本産 *Aphthona* 属ハムシ類の覚え書き

大 野 正 男

(東洋大学生物学研究室)

Ohno, M. : Notes on *Aphthona*-Species occurring in Japan

Aphthona 属に属するノミハムシは、各地に広く分布し、よく眼に触れるハムシであるが、微小種のため同定困難なものが多い。ここに同定の手引として、琉球を含む日本産の各種についてかんたんに解説してみよう。北隆館発行の原色日本昆虫大図鑑II (甲虫篇) PL. 170に、邦産4種 (*perminuta*, *formosana*, *strigosa*, *foudrasi*) が図説されているので、既形についての記載は省略する。なお、和名は中根 (1942) が *Aphthona perminuta* に与えたツブノミハムシを属の基名として用いることにし、これによつて本属に属するすべての種の和名を統一することにした。

1. *Aphthona*属の種の見分けかた

1. 体の背面は棕色または青色の金属光沢をもつ 2.
体の背面は黄褐色で金属光沢なく、翅鞘縫合部は多少とも暗色を呈する 3.
2. 前背板はしわ状構造を呈する 7.
前背板はしわ状構造を呈さない 5.
3. 前背板のしわは横位に印されるが、中央部では前後、斜、あるいは渦状となる。
翅鞘点刻間室は全面、微細な網目状構造におおわれる。体長2.0—2.5mm.
..... *A. strigosa* BALY
前背板のしわは前後に走る。翅鞘点刻間室は網目状構造でおおわれない 4.
4. 翅鞘の一次点刻間には微小な二次点刻が散在、また、弱いひび割状構造を呈する。体長2.0—2.5mm. *A. formosana formosana* CHEN
翅鞘一次点刻間のひび割状構造は、前種に比し更に顕著で、*strigosa*の翅鞘のそれに近似し、二次点刻はほとんど完全に消失して識別しにくい。
体長2.0—2.5mm. *A. formosana yakuana* NAKANE
5. 頭部前半は黄褐色。体は黒褐色で背面は鮮やかな青らん色の光沢を有し、触角と脚は完全に黄褐色。体長2.0—2.2mm. *A. amamiana* OHNO
頭部前半は黄褐色でなく、黒褐色または暗赤色 6.
6. 前頭瘤は四辺形で縦位または横位 (図K)。前背板の点刻は小さく、前後に細長、体色は普通黒褐色、背面暗緑色 (前背板は真鍮色を帯びる個体が多い) で、触角と脚 (後腿節のみ暗褐色) が黄褐色を呈するが、本邦西南部に分布する個体は背面全体が真鍮色を帯び、触角の先端数節も暗褐色を呈するものが多い。
体長2.0—2.5mm. *A. semiviridis* JACOBY

- 前頭瘤は長楕円形で斜状に位置する (図J)。前背板の点刻は大きく、円形。背面は緑藍色、触角第2—4節、脛節、跗節などは赤褐色で、他は黒褐色ないし暗赤褐色。体長2.0—2.5mm. *A. perminuta* BALY
7. 体の大部分は黄褐色で、頭部、触角先端の4—5節、小楕板、翅鞘縫合部、腹面、後腿節が赤褐色ないし暗赤褐色。体長1.6—1.8mm. *A. foudrasi* JACOBY
前種の体色に似るが、頭部、腹部、後腿節も暗色でない.....8.
8. 前頭瘤の輪郭は明瞭。触角間隆起は幅狭く、竜骨状を呈する。翅鞘縫合部附近の点刻は特に粗大とならず、翅鞘中央部のそれと略同大。体長2.0—2.5mm.
..... *A. kurosawai* OHNO
前頭瘤の輪郭は不明瞭。触角間隆起は幅広く、竜骨状とならない。翅鞘縫合部附近の点刻は翅鞘中央部のそれに比し、はるかに大きい。体長2.0—2.8mm.
..... *A. yuasai* OHNO

2. 種の解説

1. *Aphthona perminuta* BALY ツブノミハムシ (一名ブナトビハムシ)

Aphthona perminuta (nom. nov.) BALY, Col. Hefte, 14, p. 213 (1875)

Aphthona pygmaea (nec KUTSCHERA, 1861) BALY, Trans. Ent. Soc. London, p. 198 (1874) (Japan: Nagasaki).

本種は日本産 *Aphthona* 属の中では最も広い分布域をもち、北は北海道の礼文島から、南は九州大隅半島までの各地に見られる。しかし、屋久島や種子島には分布しないらしく筆者がこれらの島を調査した際には全く見出せなかつた。なお、琉球、台湾、インドシナ中国、樺太などからの本種の報告は、それらが正しく本種をさしているかどうか疑わしいので、本稿ではその分布域に含ませないことにした。食草は主にイバラ科、ブナ科に集中しているようであるが、それ以外の植物もかなり広く加害するようである。早春、ノイバラ、キイチゴなどの新葉にはよく本種が群がっているのが観察される。分布と食草を整理するとつぎのようになる。

分布：日本 (礼文、焼尻、北海道、奥尻、千島、本州、粟島、佐渡、隠岐、宍岐、対馬淡路島、四国、九州)。

食草：クリ、コナラ、クスギ、ミズナラ、ヤマハンノキ*、ブナ(ブナ科)、ヤナギ類* (ヤナギ科)、ハシバミ*、シラカバ*、イヌシデ (カバノキ科)、ニレ* (ニレ科)、ノイバラ*、テリハノイバラ、ワレモコウ、サクラ類、ウシコロシ、ズミ、ナナカマド*、エゾイチゴ* (イバラ科)、フジ* (マメ科)、ハリギリ*、タラ* (ウコギ科)、アケビ* (アケビ科)、エゾイタヤ* (カエデ科) * 印を附したものは食草として新記録。

2. *Aphthona amamiana* OHNO アマミツブノミハムシ (新称)

Aphthona amamiana OHNO, Bull. Dept. Lib. Arts, Toyo Univ., 3, p. 66 (1962) (Amami-Oshima)。前種によく似るが、頭部前半が黄褐色を呈することで容易に区別できる。奄美大島の湯湾岳で筆者自身の採集した1♂1♀をタイプとして記載

された種で、まだ他の地方から報告されたことはない。ピーティングで採集したため食草は不明であるが、シイ類である可能性がある。

3. *Aphthona semiviridis* JACOBY キアシツブノミハムシ

Aphthona semiviridis JACOBY, Proc. Zool. Soc. London, p. 730 (1885) (Japan).

本種は中条・木元 (1961) により *Aphthona perminuta* のシノニムとされ、木元の最近 (1966) の論著にもそのように扱われているが、筆者の1962年の論文ならびに本稿の検索表を見れば判るように、両者は明瞭に区別することができるので、独立種として扱うべきと考える。typicalな本種は脚と触角の色を見ただけで *perminuta* から区別できるが、四国以西に分布する本種は、触角の先端部が黒味がかり、*perminuta* とまぎらわしくなる。しかし、このような個体でも前頭瘤の形および前背板の点刻の形状によりまちがいなく区別できる。分布は本州、佐渡、四国、九州、対島、屋久島にわたっているが、あまり北にまでは分布しないらしく、その東北限は筆者の知る範囲では大体東京附近と考えられる。食草にはミツマタとアカメガシワが知られる。葉を食うだけでなく、アカメガシワの花にも集まる。また、ミツマタ栽培地では本種はその害虫の一つにかぞえられる。成虫は主として葉裏にあり、葉面を甜食し、そこに不規則な形の食痕を残す。

4. *Aphthona formosana formosana* CHEN タイワンツブノミハムシ (一名タイワンアカメガシワトビハムシ)

Aphthona formosana CHEN, Ann. Soc. Ent. France, 103, p. 158 (1934) (Formosa).

本種は台湾産の標本をタイプとして記載された種であるが、分布はかなり北にまでのび琉球、九州、四国、淡路島、紀伊半島、伊豆半島など、黒潮の影響する地域に広くまたがっている。東京附近で採集したことがないので恐らく伊豆半島辺りが分布の東北限になっているのであろう。食草はアカメガシワのみ。後述する *A. strigosa* と混棲することが多い。

5. *Aphthona formosana yakuana* NAKANE ヤクツブノミハムシ (新称)

Aphthona formosana yakuana NAKANE Sic. Rep. Saikyo Univ. (Nat. Sci. & Liv. Sci.) II (5), p. A 313 (1958) (Yakushima).

前種の亜種で、屋久島および種子島 (新記録) にのみ産する。中条・木元 (1961)、木元 (1966) など、これを亜種と認めていないが、翅鞘の表面構造が *A. strigosa* のそれに似ていることではつきり区別できるので、亜種と認めて差し支えなからう。食草は原亜種と同じくアカメガシワだけ。台湾から本州にかけて分布する *Aphthona formosana* の中、屋久島、種子島のものだけが亜種として特化している点は注目されてよい。

6. *Aphthona strigosa* BALY サメハダツブノミハムシ (一名サメハダノミハムシ、アカメガシワツブノミハムシ)

Aphthona strigosa BALY, Trans. Ent. Soc. London, p. 197 (1874) (Japan: Nagasaki).

本種は個体数の多い点では *A. perminuta* にまさるが、分布の東北限は東京附近で、

東北地方や北海道では見られない。しかし *A. formosana* が太平洋沿岸地域に限られているのに反し、本種は日本海側にも分布する（佐渡や粟島には分布しない）ので、西日本では最も普通な *Aphthona* となつている。食草は *formosana* と同じくアカメガシワだけ分布は日本（本州、伊豆諸島、冠島、隠岐、淡路島、四国、沖ノ島、九州、白島、壱岐、対馬、種子島、屋久島）、台湾、中国、インドシナ、スマトラ、フローレス。

7. *Aphthona foudrasi* JACOBY キイロツブノミハムシ（一名ニシキソウトビハムシ、コニシキソウトビハムシ）

Aphthona foudrasi JACOBY, Proc. Zool. Soc. London, p. 729 (1885) (Japan: Oyama).

本種は邦産 *Aphthona* 属中最小の種で、*Longitarsus lewisii* あるいは、*Lythraia salicariae* などと体色大きさなどが似ているので注意する必要がある。本州、九州に分布するが既知産地は少ない。食草としてはコニシキソウ、コミカンソウが知られる。

8. *Aphthona yuasai* OHNO アヤメツブノミハムシ（改称）（一名アヤメトビハムシ）

Aphthona yuasai OHNO, Bull. Dept. Lib. Arts, Toyo Univ., 3, p. 78 (1962) (Yamagata, Nagano, Yamanashi, Saitama, Tokyo).

前種に似るがやや大型。翅鞘縫合部附近に粗大点刻のあることではつきり区別できる。本州に分布し、既知産地は山形県から滋賀県にかけて存在するが、やや局地的である。食草はアヤメ科の植物に限定され、ハナシヨウブ、ノハナシヨウブ、ジャガが知られる。故湯浅啓温博士が“あやめのとびはむし” *Aphthona* sp. の名で記録したアヤメの害虫は本種と考えられる。種名は湯浅博士に献名したもの。なお、北隆館の原色日本昆虫大図鑑 II (甲虫篇), pl. 170 にアヤメトビハムシ *Luperomorpha pryeri* BALY が図示されているが、ここに図示されたものは筆者ら (1965) により記載された *Luperomorpha tokejii* CHŪJŌ et OHNO で *pryeri* ではない。この *tokejii* はクリ、ムラサキシキブ、グミなどの花に集り、アヤメを食することはないと考えられる。また、木元 (1966) によつてアヤメを食する種として記載された *Luperomorpha irisae* KIMOTO は明らかに *tokejii* と同一物である。種名に *irisae* が用いられ、*Iris* 属の植物を加害するようになつているが、まずこれを食うことはないであろう。一見、*Aphthona yuasai* と *Luperomorpha tokejii* とで似ているところがあるので、このような誤りが生じたものと考えられる。本邦でアヤメ類を食するノミハムシは、すべて *Aphthona yuasai* とみて差支えあるまい。

9. *Aphthona kurosawai* OHNO クロサワツブノミハムシ

Aphthona kurosawai OHNO, Bull. Dept. Lib. Arts, Toyo Univ., 3, p. 81 (1962) (Saitama, Tokyo, Fukushima).

本種は前種に酷似するが、翅鞘縫合部の点刻の大きさではつきり区別できる。本州に分布し、既知産地は関東およびその周辺に限られ、比較的珍らしい種である。食草は明らかではないが、鈴木 (1966) はススキのシーピングで多数の個体を得たというから、禾本

科植物である可能性が強い。

以上で日本産 *Aphthona* 属の種は挙げつくしたことになるが、本邦からは、ここに挙げた種の他に、なお、*A. varipes* JACOBY, *A. shibatai* CHÛJÔ, *A. nubila* WEISE, *A. splendida* WEISE などが記録されている。しかし、*shibatai* は木元 (1966) により *Trachyaphthona nigrita* OHNO のシノニムとされているし、他の種はすべて誤同定による誤った記録と考えられるので、これらは日本のファウナから除外してよいであろう。

また、木元 (1966) は最近の論著で、*Trachyaphthona nigrita* を *Aphthona* 属に含めているが、この種は種々の点より、やはり *Trachyaphthona* に属させておくのがよいと思われるので、本稿においてはこの種も扱わないことにした。

3. 文 献 (産地を記録しただけの文献は割愛する)

1. BALY, J.S. (1874) Catalogue of Phytophagous Coleoptera of Japan, with descriptions of the species new to science II, Trans. Ent. Soc. London, pp. 161—217.
2. ——— (1875) in Harold, E. V. Col. Heft., 14, p. 213.
3. CHEN, S.H. (1934) Coléopterès Halticinae recueillis par M H. Sauter à Formosa, Ann. Soc. Ent. France, 103, pp. 175—185.
4. CHÛJÔ, M. (1937) Studies on the Chrysomelidae in the Japanese Empire (VIII), Trans. Nat. Hist. Soc. Formosa, 27 (164), pp. 113—128.
5. ——— (1940) Beitrag zur Chrysomeliden-Fauna der Insel Sikoku, II, 14 (3), pp. 106—125.
6. 中条道夫 (1956) 食葉はむし類, pp. 1—192 (全国森林病虫獣害防除協会)。
7. CHÛJÔ, M. & S. KIMOTO (1961) Systematic catalogue of Japanese Chrysomelidae, Pacif. Ins., 3 (1), pp. 117—202.
8. 福田 彰 (1940) 数種の日本産金花虫に就いて, 日本の甲虫4(2), pp. 90—94.
9. JACOBY, M. (1885) Descriptions of Phytophagous Coleoptera of Japan, obtained by Mr. George Lewis during his second journey from February 1880 to September 1881, I, Proc. Zool. Soc. London, pp. 190—211.
10. KIMOTO, S. (1966) The Chrysomelidae of Japan and the Ryukyu Islands X, Journ. Fac. Agr. Kyushu Univ., 13 (4) pp. 601—633.
11. 中根猛彦 (1942) 野尻湖畔の葉虫相, 昆虫界, 96, pp. 69—94.
12. ——— (1958) The Coleoptera of Yakushima Island, Chrysomelidae, Sci. Rep. Saikyo Univ. (Nat. Sci. & Liv. Sci.), 2 (5), pp. A303—314.
13. ——— 他 (1963) 原色日本昆虫大図鑑II (甲虫篇), pp. 1—443 (北隆館)。
14. OHNO, M. (1962) On the species of the genus *Aphthona* Chevrolat occurring in Japan and the Loo-Choo Islands, Bull. Dept. Lib. Arts, Toyo Univ., 3, pp. 61—84.

15. ——— (1966) 隠岐諸島のハムシ類 (I), 自然科学と博物館, 33 (3~4), pp. 50~60.
16. 大野幸子 (1965) アヤメトビハムシの多産地, 採集と飼育, 27(12), pp. 450~451.
17. 鈴木邦雄 (1966) 溝ノ口付近のハムシ類, *Ins. Mag.*, 68, pp. 35~59.
18. 高倉康男 (1961) 九州産ハムシ類の生態的知見, 北九州の昆虫, 8 (1), pp. 1~14.

附 図 説 明

Figs. A~I & 1~8 : 雄交尾器 (A~I : 腹面 ; 1~8 : 側面) .

Figs. J, K : 前頭瘤と触角間隆起の 1部

Figs. A, 5, J : *Aphthona perminuta* BALY

Fig. B : *A. amamiana* OHNO

Figs. C, 4, K : *A. semiviridis* JACOBY

Figs. D, 1 : *A. strigosa* BALY

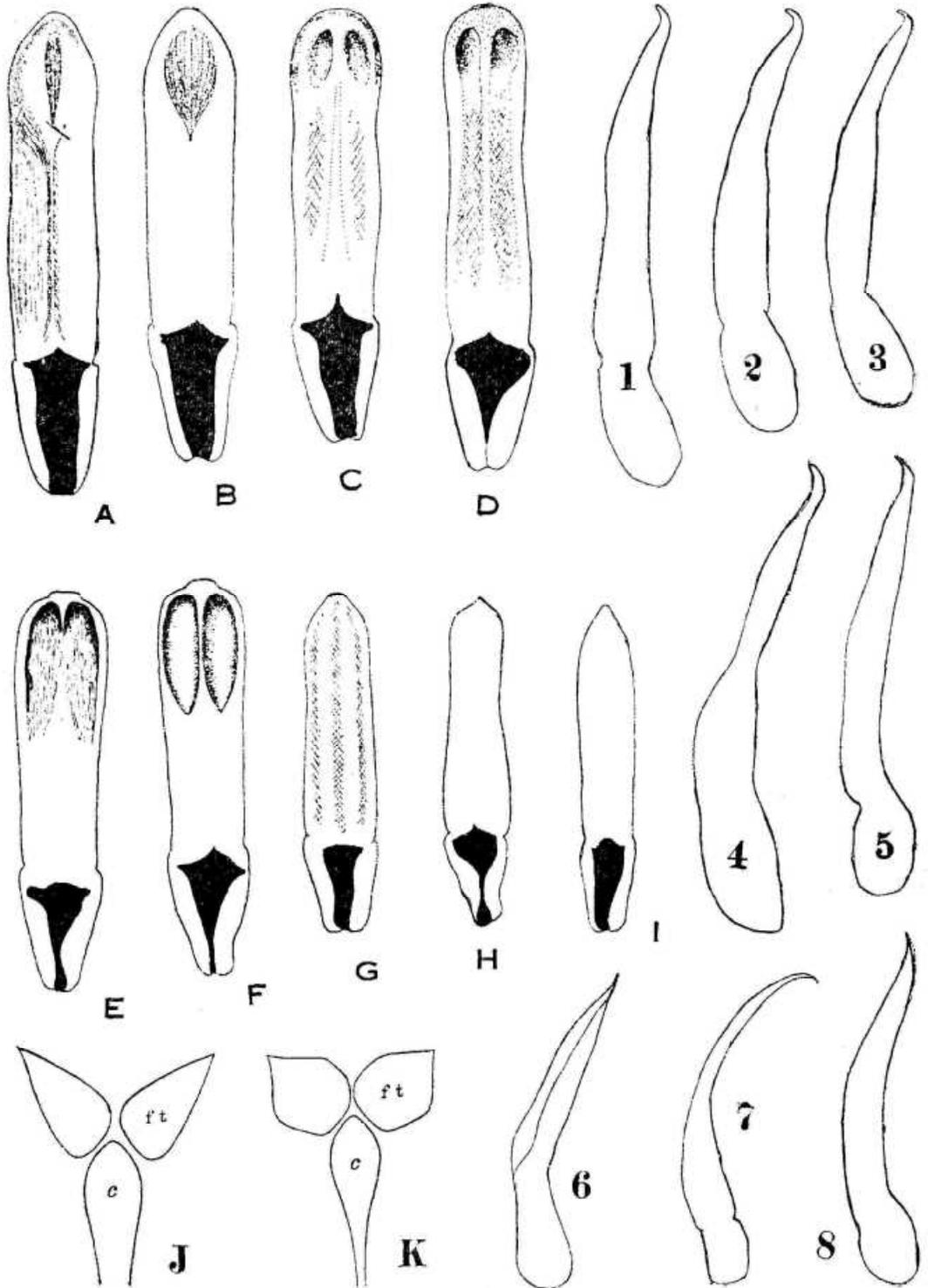
Figs. E, 2 : *A. formosana yakuana* NAKANE

Figs. F, 3 : *A. formosana formosana* CHEN

Figs. G, 8 : *A. yuasai* OHNO

Figs. H, 7 : *A. foudrasi* JACOBY

Figs. I, 6 : *A. kurosawai* OHNO



北八ヶ岳奥蓼科のカミキリ

重 井 博

(倉敷市幸町重井病院内)

1965年の7月23日、24日の2日間、長野県北八ヶ岳の登山口である奥蓼科に家族旅行し曇時々雨という悪天下を澁の湯(海拔1880m)より明治温泉(1500m)にかけて歩き、白樺の林を抜ける道端等で、岡山県では珍しいヨツボシナガツツハムシがハギの葉に十数頭も群っているのに驚いたり、美しい金緑色のオオアオゾウムシに初めてお目にかかつたりしながら、漸く16種のカミキリムシを採集することが出来た。

奥蓼科附近のカミキリムシの記録はまだ少く、*Pidonia*の分布上面白い処であるとのことなので、種類は少いが敢て記録しておく。終りに標本の同定をお願いした林匡夫氏に深く感謝します。

1. *Toxotinus reinii* HEYDEN モモグロハナカミキリ
1ex., VII. 23.
2. *Gaurotes doris* BATES カラカネハナカミキリ
3exs., VII. 23; 3exs., VII. 24.
3. *Omphalodera testacea* MATSUSHITA ニセヨツボシチビハナカミキリ
2♀, VII. 23; 4exs., VII. 24.
4. *Pidonia insuturata* PIC ヨコモンヒメハナカミキリ
2♂ 3♀, VII. 23; 1♂ 2♀, VII. 24.
5. *Pidonia maculithorax* PIC カクムネヒメハナカミキリ
3exs., VII. 23; 4exs., VII. 24.
6. *Pidonia matsushitai* OHBAYASHI マツシタヒメハナカミキリ
3♂ 3♀, VII. 23; 6♂ 1♀, VII. 24.
7. *Pidonia semiobscura* PIC ホソガタヒメハナカミキリ
3♂ 2♀, VII. 23; 5♂ 7♀, VII. 24.
8. *Pidonia debilis* KRAATZ チャイロヒメハナカミキリ
1ex., VII. 23.
9. *Marthaleptura scotodes* BATES ツヤケシハナカミキリ
1♂, VII. 24.
10. *Parastrangalis nymphula* BATES ニンフハナカミキリ
1ex., VII. 24.
11. *Judolia cometes* BATES マルガタハナカミキリ
1ex., VII. 24.
12. *Judolidia bangi* PIC スバタマハナカミキリ
1♂, VII. 24.

13. *Leptura arcuata* PANZER ヤツボシハナカミキリ
lex., VII. 23.
14. *Pterolophia japonica* BREUNING エゾサビカミキリ
lex., VII. 24.
15. *Asaperda agapanthina* BATES シナノクロフカミキリ
lex., VII. 23,
16. *Phytoecia rufiventris* GAUTIER DES COTTES キクスイカミキリ
lex., VII. 24.

岡山県北部のカミキリムシ採集品目録

— 第三報 —

道 信 順

(津山市田町119)

さきに、「すずむし」. Vol. 13, No. 2及び Vol. 14, No. 3 に146種を報告していますが、その後判明したものと、既報のもので訂正すべきものを報告します。

カミキリ亜科

147. *Stenodryas clarigera* アメイロカミキリ
VI. 30, VII. 30, '65, 津山市 燈火に來集.
148. *Stenhomalus taiwanus* タイワンメダカカミキリ
VIII. 12, VII. 30, VI. 30, '65, VII. 9, '66, 津山市いずれも燈火に來集.

フトカミキリ亜科

149. *Falsomesosella gracilior* シロオビゴマフカミキリ
VII. 10. '55, 苫田郡泉山

訂正. Vol. 13, No. 2の16番ヨコモンヒメハナカミキリはニセヨコモンヒメハナカミキリに、40番トワダムモンメダカカミキリはタカオムモンメダカカミキリと訂正します。
Vol. 13, No. 2の34番ガロアホソコバナカミキリはオオホソコバナカミキリ *Necydalis solida* の synonym ということに現在なつていますのでそのように訂正します。
Vol. 13, No. 2の120番キヌツヤカミキリはヘリウスハナカミキリのまちがいで、Vol. 14, No. 3の130番に再びあげていますので120番は削除すべきです。その結果、通し番号は合計149ですが実数は148となります。

伯耆大山・天牛採集行メモ

水野弘造

(宇治市戸の内 日本レイヨン小桜寮)

私は虫ごころついて以来伯耆大山にはかなりの採集行を試みた。しかし全て7・8月に集中していたためと、以前は蝶を目的にした場合が多かったため天牛については充分満足できる成果をあげたとは云い難い。比較的滞在期間の長かった1956年7月8～11日および同年7月25～27日の採集天牛種類数は40種（京都大学宇治分校昆虫植物採集友の会会報創刊号(1956)参照。ただしこの目録中クロトラカミキリはエグリトラカミキリの誤でありここに訂正しておく）、1957年7月10～14日および同年8月5・6日の採集品は58種(Maddesta No.9(1961)参照。ただしこれは編集上のミスによる脱落分がかなりあつて実際は60種をかなり越えていた）、という報告を行つているが、このほかに1951年7月26日頃、1952年7月21・22日、1954年7月21～23日、1960年7月16・17日、1965年7月4・5日と5回採集に出かけており、いずれも現在に残る天牛の標本は少く、記憶に残る程のものが採れなかつたことを示している。

昨夏、平田信夫氏の天牛標本を見せていただき6月の大山に相当興味深い種の多いことを発見したので、本年(1966)6月18・19日、第10回目の採集行を敢行した。京都からは往復夜行列車1泊2日の強行日程であるが、同行者は京都大学の倉田道夫教授、40歳の年にもかかわらず一も二もなく同行に賛成。幸に梅雨期にもかかわらず2日間の大半を降られることなく、豪田山～大山寺～樹水原の範囲を充分に叩いたりすくつたりできたので予想外に収獲が多く二人で計59種の天牛を手にすることができた。ヨコヤマトラ、ムネマダラトラ、トワダムモンメダカなどの珍品もあり、以下にリストアップする。少いと思われる種については採集頭数を付した。

ハナカミキリ亜科、カミキリムシ亜科の大部分は丁度満開期に当つていたゴトウヅル、サワフタギなどの花上から、フトカミキリ亜科のものは各種樅木やつた類の叩き網あるいは薪材から得たものである。ただしノブドウの叩き網で落ちたヨコヤマトラやゴトウヅルに飛来したセミスジニセリングのような例外は当然含まれる。

〔採集品目録〕

List of the Cerambycidae from Mt. Daisen Tottori Pref., June 18—19, 1966
collected by M. KURATA & K. MIZUNO

- 1) *Toxotinus reinii* HEYDEN モモグロハナカミキリ 1ex.
- 2) *Gaurotes doris* BATES カラカネハナカミキリ
- 3) *Lemula decipiens* BATES キバネニセハムシハナカミキリ
- 4) *Acmaeops minuta* GEBLER ヒナルリハナカミキリ
- 5) *Omphalodera puziloi* SOLSKY ヨツボシチビハナカミキリ
- 6) *Pidonia amentata* BATES セスジヒメハナカミキリ

- 7) *P. miwai* MATSUSHITA ミワヒメハナカミキリ
- 8) *P. simillima* OHBAYASHI et HAYASHI ニセヨコモンヒメハナカミキリ
- 9) *P. discoidalis* PIC キベリクロヒメハナカミキリ
- 10) *P. grallatrix* BATES オオヒメハナカミキリ
- 11) *P. signifera* BATES ナガバヒメハナカミキリ
- 12) *P. debilis* KRAATZ チヤイロヒメハナカミキリ
- 13) *Encyclops olivaceus* BATES テツイロハナカミキリ 1ex.
- 14) *Anoploderomorpha excavata* BATES ミヤマクロハナカミキリ
- 15) *Marthaleptura scotodes* BATES ツヤケシハナカミキリ
- 16) *Parastrangalis nymphula* BATES ニンフハナカミキリ
- 17) *Leptura latipennis* MATSUSHITA ハネビロハナカミキリ 2exs.
- 18) *L. dimorpha* BATES クロハナカミキリ
- 19) *L. arcuata* PANZER ヤツホシハナカミキリ
- 20) *Pedostrangalia femoralis* MOTSCHULSKY カタキハナカミキリ
- 21) *Leptostrangalia hosohana* OHBAYASHI ホソハナカミキリ
- 22) *Allotraeus sphaerionius* BATES トビイロカミキリ
- 23) *Stenomalus lighti* GRESSITT トワダムモンメダカカミキリ
- 24) *Molorchus kojimai* MATSUSHITA コジマヒゲナガコバネカミキリ 2exs.
- 25) *Leontium viride* THOMSON ミドリカミキリ
- 26) *Phymatodes albicinctus* BATES シロオビカミキリ
- 27) *Xylotrechus grayii* WHITE ムネマダラトラカミキリ 1ex.
- 28) *Rhaphuma japonica* CHEVROLAT エグリトラカミキリ
- 29) *Epiclytus yokoyamai* KANO ヨコヤマトラカミキリ 2exs.
- 30) *Demonax transilis* BATES トゲヒゲトラカミキリ
- 31) *Grammographus notabilis* PASCOE キイロトラカミキリ
- 32) *Anaglyptus nipponensis* BATES トガリバアカネトラカミキリ 8exs.
- 33) *A. subfasciatus* PIC キオビトラカミキリ
- 34) *A. matsushitai* HAYASHI マツシタトラカミキリ 2exs.
- 35) *Paraclytus excultus* BATES シロトラカミキリ
- 36) *Dere thoracica* WHITE ホタルカミキリ
- 37) *Parechthistatus gibber* BATES ヒメコブヤハズカミキリ 2exs.
- 38) *Nanohammus rufescens* BATES クリイロシラホシカミキリ 2exs.
- 39) *Mesosa japonica* BATES ゴマフカミキリ
- 40) *Rhopaloscelis unifasciatus* BLESSIG ヒトオビアラゲカミキリ 2exs.
- 41) *R. bifasciatus* KRAATZ フタオビアラゲカミキリ
- 42) *Cylindilla grisescens* BATES ハイイロツツクビカミキリ
- 43) *Doius divaricatus* BATES ドイカミキリ

- 44) *Pterolophia zonata* BATES アトジロサビカミキリ
 45) *P.* sp. シロオビサビカミキリ
 46) *P.* sp. ヒメナガサビカミキリ
 47) *Mesosella simiola* BATES クワサビカミキリ
 48) *Asaperda rufipes* BATES キクスイモドキカミキリ
 49) *Pseudocalamobis japonicus* BATES ドウボソカミキリ
 50) *Leiopus stallatus* BATES ゴマダラモモフトカミキリ
 51) *Exocentrus testudineus* MATSUSHITA キツコウモンケシカミキリ
 52) *Miccolamia verrucosa* BATES チビコブカミキリ 8exs.
 53) *Saperda tetrastigma* BATES ネムモンヤツホシカミキリ 1ex.
 54) *Menesia sulphurata* GEBLER キモンカミキリ
 55) *Glenea relictata* PASCOE シラホシカミキリ
 56) *Pareutetrapha simulans* BATES ダイセンカミキリ
 57) *Epiglenea comes* BATES ヨツキボシカミキリ
 58) *Eumecocera trivittata* BREUNING セミスジニセリソゴカミキリ 2exs.
 59) *Chreonoma fortunei* THOMSON ルリカミキリ 1ex.

以上である。今回の採集行で手にしえなかつた天牛で従来の採集品中にみられるものは私自身の採集品ないし同行者の採集品をあわせて50種を数えることができ、このほか多数の記録を集めると200種を越えることと思われる。本同好会の手により是非とも伯耆大産天牛類の正確なリストを作成したいものである。

岡山県未記録の天牛及び既報告種の訂正

青 野 孝 昭

(倉敷市北浜町2-48)

本年初頭、倉敷昆虫館にて林匡夫博士に多くの天牛を同定していただいた中に、若干の岡山県未記録種や既報告種の中で訂正すべき種も見いだされたので、ここに、これらの一節と、それとは別に判明していたものを二、三含めて報告しておく。

種々ご指導いただきました林匡夫博士、この度の機会をつくる為に特にご尽力されました重井博博士に厚く御礼申し上げます。

1. **Pidonia mutata* BATES, 1884 ヒメハナカミキリ

1 ♀, 真庭郡新庄村野土路峠, May 25, 1963 (T. AONO leg.); 1 ♂, 真庭郡新庄村高下, May 26, 1963 (T. KONDŌ leg.); 1 ♂, 真庭郡新庄村野土路峠, May 26, 1963 (H. SHIGEI leg.); 1 ♀, 真庭郡新庄村野土路峠, May 26, 1963 (H. ONO leg.)

すずむし 13(2):9, f. 11, 12に *Pidonia* sp. として報告されたものは林匡夫博士により, 上記の種であると同定された。

2. **Pidonia simillima* OHBAYASHI et HAYASHI, 1960 ニセヨコモンヒメハナカミキリ

1 ♀, 真庭郡新庄村野土路峠, May 24, 1964 (T. AONO leg.); 3 ♂, 苫田郡加茂町倉見, June 7, 1964 (H. SHIGEI leg.); 5 ♂ 1 ♀, 苫田郡上斉原村人形峠, May 31, 1964 (H. SHIGEI leg.)

すずむし 14(4):8に報告されている *Pidonia miwai* MATSUSHITA のうち加茂町倉見産の 2exs. 及び上斉原村人形峠産 3exs. 中 1ex. は本種である。また, 同じく *Pidonia insuturata* PIC として報告されている加茂町倉見産 1ex. と上斉原村人形峠産 5exs. はすべて本種の間違いである。

3. *Pidonia miwai* (MATSUSHITA, 1933) ミワヒメハナカミキリ

1 ♂, 真庭郡新庄村野土路峠, May 25, 1963 (H. SHIGEI leg.); 1 ♂, 真庭郡新庄村野土路峠, May 26, 1963 (T. AONO leg.)

すずむし 13(2):8~9, f. 9に報告されている *Pidonia insuturata* PIC の野土路峠産の 2例はいずれも上記 *miwai* の♂である。

4. *Leptura (Leptura) aethiops dimorpha* BATES, 1873 ムネアカクロハナカミキリ

1 ♂, 吉備郡昭和町滝山, May 22, 1960 (T. AONO leg.); 1 ♂, 高梁市上神崎, June 12, 1960 (T. AONO leg.)

すずむし 12(1):2~3に *Leptura aethiops aethiops* PODA として報告されているのは本亜種 *dimorpha* の間違いである。

5. **Leptura (Nakanea) vicaria* (BATES, 1884) フタスジハナカミキリ

1 ♀, 英田郡西粟倉村大茅, July 12, 1964 (T. AONO leg.)

新しい伐採木に飛来中のものを採集した。

6. **Leptostrangalia hosohana* (OHBAYASHI, 1952) ホソハナカミキリ

1 ♀, 真庭郡新庄村野土路峠, June 30, 1963 (H. UNO leg.)

すずむし 13(2):9に *Idiostrangalia contracta* BATES として報告されたもののうち上記のものは *hosohana* である。

7. *Falsomesosella gracilior* (BATES, 1884) シロオビゴマフカミキリ

6exs., 高梁市臥牛山, June 28, 1959 (T. AONO leg.)

すずむし 12(1):4に *Mesosella simiola* BATES として報告されていたもののうち, 上記のものは本種である。この種については以前, 船越俊平氏を通じて大林一夫氏に同定していただいていたものである。この機会にここに報告し, 両氏に感謝の意を表します。

注) *印は岡山県未記録種を示す。

大山産カミキリムシ類採集品目録

協 本 浩

(都窪郡清音村)

1966年7月8・9・10日と大山へカミキリムシの採集に出かけた。雨の多い時期であつたが、次に示すような種が採れたので発表させていただく。同定、御教示下さつた青野氏に厚く御礼申し上げます。

なお、以前大山で採つたカミキリ数種もあわせてここで発表させていただきます。

DISTENIINAE ホソカミキリ亜科

1. *Distenia gracilis* BLESSIG, 1872 ホソカミキリ
1ex., 20. VII. 1959,

LEPTURINAE ハナカミキリ亜科

2. *Gaurotes doris* BATES, 1884 カラカネハナカミキリ
1ex., 2. VII. 1960 ; 2exs., 9. VII. 1966 ; 1ex., 10. VII. 1966
3. *Pidonia signifera* BATES, 1884 ナガバヒメハナカミキリ
2exs., 9. VII. 1966 ; 2exs., 10. VII. 1966
4. *P. miwai* MATSUSHITA, 1933 ミワヒメハナカミキリ
1ex., 9. VII. 1966 ; 1ex., 10. VII. 1966
5. *Judolia cometes* BATES, 1884 マルガタハナカミキリ
4exs., 9. VII. 1966
6. *Anoplodera misella* BATES, 1884 チャボハナカミキリ
9exs., 9. VII. 1966 ; 2exs., 10. VII. 1966
7. *A. excavata* BATES, 1884 ミヤマクロハナカミキリ
11exs., 9. VII. 1966 ; 2exs., 10. VII. 1966
8. *A. rubra succedanea* LEWIS, 1879 アカハナカミキリ
1ex., 22. VII. 1959
9. *Leptura ochraceofasciata* MÖTSCHULSKY, 1861 ヨツスジハナカミキリ
1ex., 22. VII. 1959 ; 1ex., 9. VII. 1966
10. *Japanotrangalia dentatipennis* PIC, 1901 ヒゲジロハナカミキリ
1ex., 21. VII. 1959 ; 3exs., 9. VII. 1966
11. *Strangalia nymphula* BATES, 1884 ニンフホソハナカミキリ
8exs., 9. VII. 1966
12. *S. contracta* BATES, 1884 ミヤマホソハナカミキリ
4exs., 9. VII. 1966 ; 1ex., 10. VII. 1966

13. *S. hosohana* OHBAYASHI, 1952 ホソハナカミキリ
2exs., 9. VII. 1966

CERAMBYCINAE カミキリ亜科

14. *Allotraeus sphaerioninus* BATES, 1877 トビイロカミキリ
1ex., 22. VII. 1959
15. *Stenygrinum quadrinotatum* BATES, 1873 ヨツボシカミキリ
2exs., 9. VII. 1966
16. *Xylotrechus rufilius* BATES, 1884 クビアカトラカミキリ
1ex., 9. VII. 1966
17. *Chlorophorus japonicus* CHEVROLAT, 1863 エグリトラカミキリ
2exs., 9. VII. 1966 ; 1ex., 10. VII. 1966
18. *Demonax transillis* BATES, 1884 トゲヒゲトラカミキリ
5exs., 9. VII. 1966
19. *Anaglyptus matsushitai* HAYASHI, 1954 マツシタトラカミキリ
1ex., 9. VII. 1966
20. *Anaglyptus nipponensis* BATES, 1884 トガリバアカネトラカミキリ
1ex., 2. VII. 1960
21. *Paraclytus excultus* BATES, 1834 シロトラカミキリ
1ex., 2. VII. 1960 ; 1ex., 9. VII. 1966 ; 1ex., 10. VII. 1966

LAMIINAE フトカミキリ亜科

22. *Monochamus subfasciatus* BATES, 1873 ヒメヒゲナガカミキリ
2exs., 9. VII. 1966
23. *Xemicotata pardalina* BATES, 1884 チャボヒゲナガカミキリ
1ex., 9. VII. 1966
24. *Pterolophia angusta* BATES, 1873 マルモンサビカミキリ
1ex., 22. VII. 1959
25. *Pterolophia japonica* BREUNING, 1938 エゾサビカミキリ
3exs., 9. VII. 1966
26. *Mesosella simiola* BATES, 1884 クワサビカミキリ
1ex., 9. VII. 1966 ; 1ex., 10. VII. 1966
27. *Sybrodiboma subfasciata* BATES, 1884 シロオビチビカミキリ
1ex., 9. VII. 1966
28. *Rhopaloscelis bifasciatus* KRAATZ, 1879 フタオビアラゲカミキリ
5exs., 9. VII. 1966
29. *Eupogonopsis tenuicornis* BATES, 1884 ホソヒゲケブカカミキリ
3exs., 9. VII. 1966

30. *Eryssamena saperdina* BATES, 1884 トゲバカミキリ
2exs., 2. VII. 1960
31. *Eutetrappa ocelota* BATES, 1873 ヤツメカミキリ
1ex., 9. VII. 1966
32. *Glenea chrysochloris* BATES, 1879 ハンノアオカミキリ
1ex., 9. VII. 1966
33. *Glenea relictata* PASCOE, 1868 シラホシカミキリ
3exs., 9. VII. 1966 ; 1ex., 10. VII. 1966
34. *Glenea simulans* BATES, 1873 ヒメキクスイカミキリ
1ex., 22. VII. 1959
35. *Oberea nigriventris* BATES, 1873 ホソリンゴカミキリ
2exs., 22. VII. 1959
36. *Eumecocera unicolor* KANO, 1933 クロニセリンゴカミキリ
1ex., 9. VII. 1966

おとしぶみ

ヒゲナガカミキリの目撃

1966年9月11日, 11時頃, 場所は駄牛山, 城のある頂上から大松山へ向う途中の橋のもとで休んでいると, 本種の♂が一頭飛来し, 頭上のカエデの葉上に止まった. しばらく動いていたが, やがて飛び去った. まぎれもなく本種の♂であつた. 長い触角, 黒い体が印象的であつた.

(脇本 浩)

タカサゴシロカミキリの記録

本種は「新しい昆虫採集(下)」によれば, 5~8月に出現することになっている. 私は1966年10月9日に, 川上郡地頭で道路上の石の上に止まっている本種1頭を採集した. もちろん生きた個体である. 時期的にかなり遅いので参考までに発表しておきます.

(脇本 浩)

アカネカミキリの岡山県内での記録

少し古い記録ですが県内での記録がありますので発表します.

Phymatodes maaki (KRAATZ 1879,) アカネカミキリ

1ex. 高梁市玉川町 26. IV. 1959 WAKIMOTO leg.

(脇本 浩)

本年県下で採集したスズメガについて

赤 枝 一 弘

(岡山県西大寺市益野190 D-42)

- Acherontia styx* メンガタスズメ
高梁市臥牛山 29. VII. 1966, あんがい少ない種である.
- Meganoton scribae* エゾシモフリスズメ
真庭郡湯原町 20. VII. 1966, 記録は少ないが県北では普通であろう.
- Oxyambulyx schauffelbergei* モンホンバスズメ
新見市井倉 19. VI. 1966 ; 真庭郡湯原町 20. VII. 1966, 5exs.
湯原では次種と共に多く全部を採つたわけではない. 県北では普通.
- Oxyambulyx ochracea* ホソバスズメ
真庭郡湯原町 20. VII. 1966, 4exs.
- Clanis bilineata* トビイロスズメ
真庭郡湯原町 20. VII. 1966
- Marumba gaschkewitschii* モモスズメ
新見市井倉 19. VI. 1966
- Marumba sperchius* クチバスズメ
新見市井倉 19. VI. 1966, 那須採集 ; 真庭郡湯原町 21. VII. 1966
- Langia zenzeroides* オオシモフリスズメ
真庭郡湯原町 27. IV. 1966, 鳥にくわれたと思う2個体分の翅をひろつた.
- Callambulyx tatarinovii* ウンモンズズメ
新見市井倉 19. VI. 1966
- Phillosphingia dissimilis* エゾスズメ
新見市井倉 19. VI. 1966, 那須採集, 3. VII. 1966
- Ampelophaga rubiginosa* クルマスズメ
久米郡福渡 26. VI. 1966 ; 真庭郡湯原町 20. VII. 1966
- Acosmeryx castanea* ブドウスズメ
新見市井倉 19. VI. 1966, 那須採集
- Deilephila elpenor* ベニスズメ
真庭郡湯原町 20. VII. 1966
- Deilephila askoldensis* ヒメスズメ
西大寺市水源池 22. VIII. 1966
本年も本種を記録できたがやはり8月以降であり, 1964年IX月14日にも那須敏氏が西大寺市河本橋で採つていることが分つた. 従つて3年連続で採れているわけで近くに発生地があることは確実である. 他地域ではまだ採れぬ.
- Theretra japonica* コスズメ
真庭郡湯原町 20. VII. 1966, 2exs.
- Rhagastis mongoliana* ピロウドスズメ
真庭郡湯原町 20. VII. 1966, 3exs.
個体数はかなり多かつた. 県北では普通と思われる. 県南では少ない.

ニシキキンカメムシの生態 (予報)

小野 洋 ・ 近藤 光宏
(倉敷市酒津2580の50) (倉敷市住吉町231)

Preliminary note on the biology of *Poecilocoris splendidulus* ESAKI

By Hiroshi Ono and Teruhiro Kondo

Poecilocoris splendidulus ESAKI ニシキキンカメムシは、Scutellerinae キンカメムシ亜科に属する本邦最美のカメムシであるが、その産地は局限されており、現在迄に本邦からは東京都氷川・奥多摩、三重県藤原岳、和歌山県黒沢山、岡山県阿哲峡、福岡県古処山が知られており、更に朝鮮から京畿道蘆島での記録があるのみである。この中、古処山では1日に約200頭採集された記録(江崎, 1936)もあつて、多産するものようであるが、他の地域では、いずれも少い。

阿哲峡では1956年5月3日に初めて発見され、その後殆ど毎年のように確認されてはきたが、ここでもその個体数は比較的多くない。このように珍稀種であるということなどもあつて、本種の生態については、今迄に、僅に5齢幼虫と成虫の野外観察、飼育が行われている程度で、殆ど未知の状態であつた。

筆者等は、1959年以来当地での野外観察、飼育などを続けてきたが、現在迄にその生態について若干の知見を得たので、ここに中間報告的なかたちで、簡単に報告しておきたい。

本研究を行うにあたり、ご懇切なるご指導をいただいている農林省農業技術研究所、長谷川仁技官、東北農業試験場小林尚技官に対し心から深謝の意を表する。

I. 観察の方法および材料

1. 野外での観察

1959年から毎年4～8月に数回にわたつて阿哲峡の生息地において、自然状態における生態の観察を続けた。

2. 飼育の方法

1961年から毎年、生息地より持帰つた羽化期の材料により飼育観察を行つた。成虫から交尾、産卵迄は飼育箱を使用し、中に食餌植物を挿した小瓶を入れて飼育した。卵から1齢はシヤレーを使用、底にろ紙を敷き、食餌を給与して飼育。2齢からは腰高シヤレー、飼育瓶にうつして飼育観察した。

飼育の場所は、学校の研究室と筆者等の自宅とに分散して観察を行い、常に連絡、協力を保つよう努めた。

また1964年からは自宅の庭に食餌植物を植えて、それに放飼することも試み、観察を続けた。

II. 観 察 結 果

1. 生活史の概要

年1世代で、*Poecilocoris lewisi* (DISTANT) アカスジケンカメムシ (小林, 1957) と同様5齢幼虫態で越冬する。阿哲峡では4月中旬頃から活動を始めて、下旬から5月上旬にかけて羽化する。成虫は5月中、下旬に交尾、5月下旬から産卵活動を始め、遅いものは6月中、下旬まで続けられる。卵は食草の葉裏に14個の塊として産付される。孵化した幼虫は8月、9月頃迄には5齢幼虫となり、秋には落葉下などで越冬に入る。

2. 野外における成虫の生態

生息地の植物相は甚だ豊かで、ツヅラフジ、コウゾ、アラカシ、ヤマブキ、カキ、クルミ、ヌルデ、エノキ、アオキ、ノグルミ、ナナメノキなどが、石灰岩の断崖に繁茂している。羽化当時いろいろな植物に見られた成虫は、間もなく *Sinomenium acutum* (THUNB.) REHD. et WILS. ツヅラフジ (オオツヅラフジ) [ツヅラフジ科] に集ってくる。先にも述べた (小野, 1959) ように、5月上旬から中旬にかけて、当地において本種を探すには、この植物に気を配れば容易である。殊に成虫はこの植物を好むようで、この時期には殆ど他の植物上では姿を認め得ない程である。

1963年の5月中旬には、日蔭の部分のツヅラフジの茎で、比較的狭い範囲に多数が群がって吸液或は交尾の活動の状態にあるところを観察できた。(Fig. 1)

また、茎から吸液する場合には、成虫ではその好適とする太さが、ほぼ限られているものようで、径8mm程度のものに最も多く見受けられ、それ以下のものには少い。

6月以後になると、生息地では、他の植物の成長による障害などもあつて、成虫は発見しにくくなり、観察は困難となる。



Fig. 1 ツヅラフジの茎に集まる成虫 (May, 1963, 新見市阿哲峡) [古屋野寛氏撮影]

3. 飼育経過と幼虫の生態

飼育中の成虫も、太い茎からよく吸液する。成虫の飼育はツヅラフジだけで可能である。交尾は長時間継続され、1日を越える場合も少なくない。その間歩行し、また吸液も行われる。

卵は、ツヅラフジ葉上に産付される場合が多く、茎、その他の場合も若干見られた。

卵は、光沢のある黄緑色を呈するが、順次濃色となり、4、5日程で、赤色の眼点が見られる。また孵化前には斑文や動いている状態が卵殻を透して観察できる。

孵化は、上向いた形で、ほぼ一斉に行われる。直後の幼虫は、目のみ赤色で、全体白味を帯びた黄緑色。殊に腹側と脚、触角は白味が強く、背側胸部および腹部の大斑の部分は若干濃色である。30分後には既に、体色にかなりの変化が見られ、本来の色に近づいていく。

1 齢幼虫は孵化後しばらくは卵塊殻のまわりに、14 個体全部が頭部を中にして集り静止しているが、1 日後には他の場所へ移動し、依然として全個体が集合する。離れた場所で吸液活動を終えると、再びその場所へ帰ってくる。この群集性は、アカスジキンカメムシでも知られているものである（小林, 1957）が、本種では、2 齢ぐらいまで見られる。

若虫は、ツヅラフジを成虫ほどは好まないようで、つぼみや果実を与えても成長できない。ビワの果実などを与えて飼育した。1962年7月15日に生息地において、腹部が真赤に膨大した2 齢末期の若虫を *Broussonetia Kazinoki* Sieb. コウゾ〔クワ科〕の近くで発見した。生息地には前述のツヅラフジと共にコウゾが目立つて多く、この時期には赤色の果実が無数にぶら下つている。そこで早速このコウゾの果実を飼育に使用したところ、かなり好むように見受けられた。新鮮なものを絶やさないようにすれば、よく成長する。

2 齢への脱皮直後は、全体に橙色を呈するが、間もなく本来の体色に復する。この体色の変化は、これ以後羽化に至る迄、脱皮ごとに繰返される。

齢を追うに従つて活動は活発化し、食餌植物の好みも変つていくように見受けられる。また群集性は弱まる。2 齢では歩行中に急に停止して、体を素早く左右にふる運動が、しばしば観察できる。

食餌植物の与え方など飼育操作の不手際から、4 齢から5 齢への生態をまだ確めていないが、卵期間および幼虫期間について、今迄の飼育記録の中から、1, 2 の例を第1表に示しておく。なお、卵、若虫の形態の記載は、今回は省略する。

Tab. 1 飼育経過表

材料	経過 供試 卵数	産卵	卵期間	孵化	1 齢 期間	第 1 回 脱皮	2 齢 期間	第 2 回 脱皮	3 齢 期間	第 3 回 脱皮	4 齢期
A	14			VI. 6	6~7日	VI. 12 ~13	12~ 13日	VI. 25	13~ 15日	VII. 8 ~10	VIII. 24 ~IX. 9死
B	14	VI. 8	11日	VI. 19	5~6日	VI. 24 ~26	13~ 14日	VII. 8 ~9	15日	VII. 23	VIII. 3 以後死

4. 食 草

九州の古処山で、鳥潟 (1936) は成虫を *Indigofera decora* LINDL. イワフジ (ニワフジ)〔マメ科〕で多数発見し、その吸液活動を確認したことを記している。

しかし阿哲峽の生息地においては、イワフジは見当たらないが、前述の如く、ツヅラフジに集ることがわかつており、また飼育によつても、交尾、産卵に至るまでの栄養を一応満たすことが確認できたので、ツヅラフジも成虫の食餌植物の1つであることが考えられる。

幼虫のそれについては、飼育によるものの記録しかなく、未だ決定的なものは見当たらない。若齢幼虫は、コウゾがない場合には、ツヅラフジの茎からも吸液するのを観察しているし、ビワの果実からもよく吸うが、やはり、コウゾの果実を最も好み、これによつて4

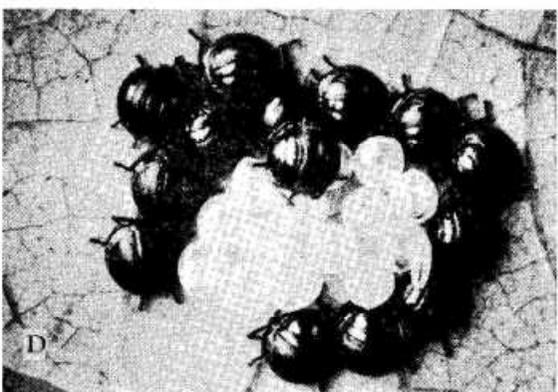
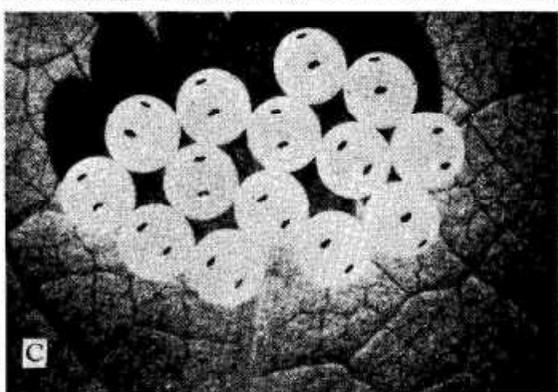
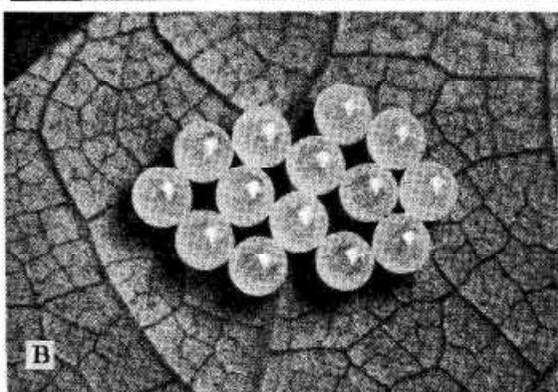
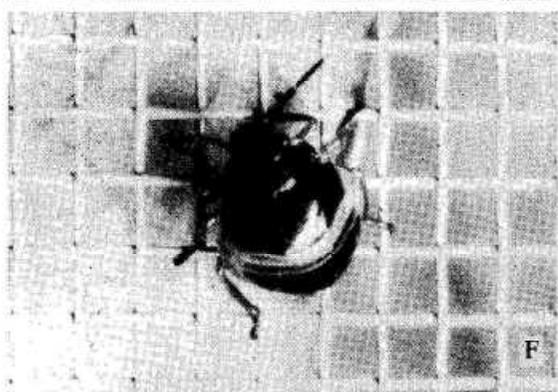
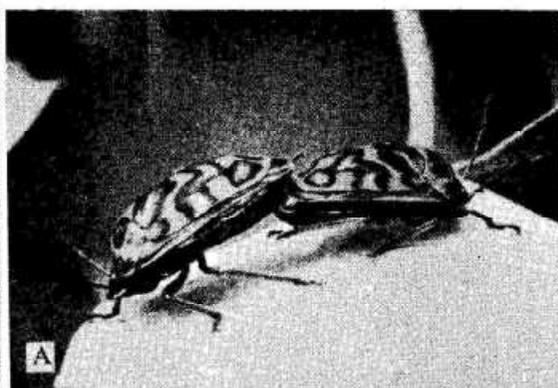
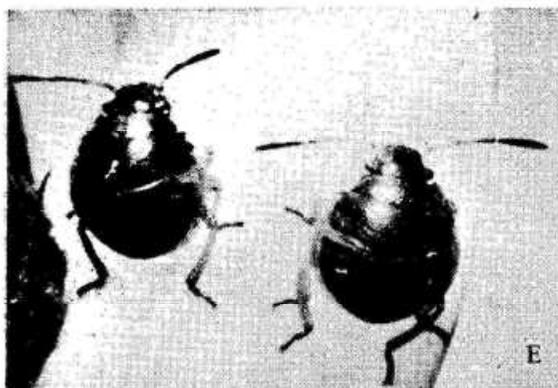
齡迄飼育できた。また現地においても、吸液中の観察こそできなかつたとは言え、コウゾのすぐ近くで幼虫を発見したこともあり、この果実にはツマジロカメムシの若虫、チャバネアオカメムシ、ハリカメムシなど多くのカメムシ類が好んで集つているのをたびたび観察している。また、小林尚氏からの私信では、クワの果実により4 齡迄の飼育に成功されたとのことであり、筆者等はコウゾ又はこの近縁のものの果実が、本種若虫の成長期の或期間における真の食餌の1つになり得るのではないかと考えている。

参 考 文 献

- 1) Esaki, T. (1935) : A new species of Scutellerinae from Japan (Hemiptera : Pentatomidae), むし, 8 : 105—107.
- 2) 江崎悌三 (1936) : ニシキキンカメムシ追報, むし, 9 : 37.
- 3) 行徳直己 (1966) : *Poecilocoris splendidulus* ESAKI ニシキキンカメムシ採集飼育記, Rostria, 13 : 55—56.
- 4) 石原 保 (1947) : 日本産カメムシ科概説, 虫・自然, 2 (4.5.6) : 55—69.
- 5) 風早保男 (1957) : 阿哲峽のニシキキンカメムシについて, すずむし, 7 : 11.
- 6) Kobayashi, T. (1954) : The Developmental Stages of Some Species of The Japanese Pentatomoidea (Hemiptera) III, 四国昆虫学会会報, 4 : 63—68.
- 7) 小林 尚 (1957) : カメムシの生態 (5), 新昆虫, 10 (3) : 28—31.
- 8) 小野 洋 (1959) : ニシキキンカメムシの生態断片, すずむし, 9 : 43.
- 9) ——— (1963) : ニシキキンカメムシ, 教育時報, 15 (2) : 19.
- 10) ——— (1966) : 高梁川流域の昆虫, 三. カメムシ, 高梁川, 19 : 45—48.
- 11) 鳥瀧恒雄 (1936) : 古處山採集会記事, むし, 9 : 59—60.
- 12) 植村利夫 (1936) : ニシキキンカメムシ, 紀州動植物, 3 : 21—23 (未見).
- 13) 若林正史 (1956) : 阿哲峽採集記, すずむし, 6 : 6.
- 14) 山下善平・外 (1963) : 鈴鹿山脈の昆虫, 鈴鹿山脈自然科学調査報告書抜刷, 170pp. esp. pp. 133—134, p. 182.

図 版 説 明

- A : ツヅラフシ葉上で交尾中の成虫
 B : ツヅラフシ葉上に産付された卵塊
 C : 眼点が現われた卵
 D : 孵化直後, 卵殻の周囲に集る1 齡幼虫
 E : 2 齡幼虫
 F : 3 齡幼虫
 G : 4 齡幼虫
 H : 5 齡幼虫



(H. ONO and T. KONDŌ photo.)

岡山県未記録の蛾

楨 本 精 二

(児 島 市 林 7 9 0)

1961年末までに発表された岡山県の蛾類関係論文(参考文献1—5)を整理した結果、46科1048種が判明した。この外標本が焼失したため種名の判明しないものが27種ある。

その後原色図鑑の出現により蛾の分布に関する研究が急速にすすみ、各地で産出蛾類の目録が発表されている。わが岡山県でも蛾類同好者の増加、倉敷昆虫館・津山自然科学博物館の開設などにより採集活動が活発となり1966年8月末現在までの収集品を整理したところ198種の未記録の蛾が得られた。この外に道信順氏が本誌に97種の未記録の蛾を『県北部における分布資料』として発表されているので、合計1343種の蛾が産することとなった。

この報文の発表にあたり、貴重な文献を貸与御指導をいただいた東京都・杉繁郎氏に深く感謝します。また貴重な採集品を見る機会を与え、発表することを許された倉敷昆虫同好会会員諸氏に厚くお礼申し上げます。

記

Sphingidae スズメガ科

1. **Deilephila askoldensis* OBERTHUR ヒメスズメ
8. VIII. '65; 20. VIII. '65, 西大寺市河本, 赤枝一弘 (K. A)
1964年夏に那須敏も同じ場所で lex. を採集している。

Nolidae コブガ科

1. *Celama confusalis nami* INOUE ヒメコブガ
12. VI. '64, 高梁市広瀬, 楨本精二 (S. M); 7. VIII. '64, 新見市井倉, 楨本精二
2. *Roeselia albula pacifica* INOUE トビモンシロコブガ
9. V. '66; 26. VI. '66, 西大寺市水源地, K. A; 15. V. '66, 児島市赤崎, S. M

Arctiidae ヒトリガ科

Lithosiinae コケガ亜科

1. *Nударidia ochracea* BREMER クシヒゲコケガ
29. VII. '65, 新見市正田, S. M

Agaristidae トラガ科

2. **Seudyra venusta* LEECH ベニモントラガ
29. VIII. '65, 正田, S. M

Noctuidae ヤガ科

Apatelinae ケンモン亜科

1. *Moma fulvicollis* de LATTIN キクビゴマケンモン
25. VIII. '65, 苫田郡奥津町, 大橋英雄 (H.O)
2. *Apatele pulaerosa* HAMPSON シロハラケンモン
11. VII. '63 ; 15. VIII. '63, 玉島市玉島, S.M

Heliiothidinae タバコガ亜科

3. *Adisura atkinsoni* MOORE アカヘリヤガ
17. VIII. '63, 玉島市陶, S.M

Noctuinae モンヤガ亜科

4. *Euxoa* (s. str.) *sibirica* BOISDUVAL ウスグロヤガ
3. VI. '64, 陶, S.M
5. *Hermonassa arenosa* BUTLER ホシボンヤガ
3. XI. '65, 新見市新見, 岡本忠 (T.O)
6. *Amathes* (s. str.) *c-nigrum* LINNE シロモンヤガ
13. V. '66, 水源地, K.A
7. *Amathes* (s. str.) *kollari plumbata* BUTLER ハコベヤガ
25. IX. '65, 正田, S.M

Hadeninae ヨトウガ亜科

8. *Leucania consanguis* GUENEE マメチヤイロキヨトウ
2. IX. '63 ; 10. IX. '63, 玉島, S.M

Cucullinae セダカモクメ亜科

9. *Cucullia maculosa* STAUDINGER ハイイロセダカモクメ
24. IX. '65, 児島市下津井, S.M
10. *Cucullia perforata* BREMER セダカモクメ
18. IX. '63, 玉島, S.M
11. *Dryobotodes pryeri* LEECH プライヤオビキリガ
18. XI. '63, 児島市小川, S.M
12. *Eupsilia contracta* BUTLER ウスミモンキリガ
4. XII. '65, 倉敷市旭町, 田辺恒彰 (T.T)
13. *Conistra fletcheri* SUGI テンスジキリガ
23. IV. '65, 水源地, K.A
14. *Telort aacuminata* BUTLER ウスキトガリキリガ
9. XI. '63, 玉島, S.M

15. *Valeriodes viridimacula* GRAESER アオバハガタキリガ
18. XI. '65, 水源地, K. A
16. *Blepharita melanodonta* HAMPSON オオハガタヨトウ
3. XI. '65, 新見, T. O

Amphipyridae カラスヨトウ亜科

17. *Apamea hampsoni* SUGI ネスジシラクモヨトウ
9. VI. '65, 児島市カイワリ峠, S. M
18. *Apamea cuneata* LERCH カバマダラヨトウ
10. VII. '66, 水源地, K. A
19. **Nonagria püngeleri* SCHAWERDA オオチャパネヨトウ
5. VIII. '65, 倉敷市栄町, T. T
20. *Jambia japonica* SUGI シロマダラヒメヨトウ
3. VII. '66, 井倉, K. A
21. *Trachea auriplena lucia* BUTLER オオシロテンアオヨトウ
29. VIII. '65, 正田, S. M
22. *Atrachea sordida* BUTLER マエホシヨトウ
5. X. '64, 陶, S. M
23. *Spodoptera mauritia* BOISDUVAL シロナヨトウ
10. IX. '63, 栄町, 山砥河朗 (S. Y) : 26. X. '63, 玉島, S. M : 20. VIII. '65, 水源地, K. A
24. *Athetis lapidea* WILEMAN ヒメウスグロヨトウ
5. IX. '64, 新見市河本ダム, S. M
25. *Callopietria albolineola* GRAESER シロスジツマキリヨトウ
7. VIII. '64, 井倉, S. M
26. *Chasminodes cilia* STAUDINGER ウススジギンガ
17. VII. '66, 高梁市臥牛山, K. A
27. *Chasminodes nervosa* BUTLER ウラギンガ
12. VII. '64, 英田郡西粟倉村若杉峠, S. M

Euteliinae フサヤガ亜科

28. *Eutelia sinuosa* MOORE シロモンフサヤガ
'63, 栄町, S. Y

Nycteolinae キノカワガ亜科

29. *Risoba prominens* MOORE リユウキユウキノカワガ
2. VIII. '65, カイワリ峠, S. M
30. *Lamprothripa hampsoni* WILEMAN ネジロキノカワガ
29. VIII. '65, 正田, S. M
31. *Macrochthonia fervens* BUTLER カマフリンガ

16. VIII. '65, 正田, S. M
 32. **Bena kraefffti* GRAESER アカスジアオリンガ
 3. V. '63, 広瀬, S. M

Acontiinae コヤガ亜科

33. *Jaspidia nemorum* OBERTHÜR マダラコヤガ
 19. VI. '66, 井倉, K. A
 34. *Lophoruza pulcherrima* BUTLER モモイロツマキリコヤガ
 16. VIII. '65, 正田, S. M
 35. *Emmelia trabealis* SCOPOLI キマダラコヤガ
 16. IX. '63, 玉島, S. M
 36. *Amyna octo* GUENEE シロテンヒメコヤガ
 26. IV. '64, 陶, S. M

Plusiinae ウワバガ亜科

37. *Plusia leonina leonina* OBERTHÜR マガリキンウワバ
 29. VII. '66, 奥津町, 大橋英雄 (H. O)
 38. *Diachrysia daubei* BOISDUVAL アミメギンウワバ
 16. IX. '63, 玉島, S. M

Catocalinae シタバガ亜科

39. *Catocala jonassii* BUTLER シヨナスキシタバ
 17. VII. '66, 臥牛山, K. A
 40. *Catocala duplicata* BUTLER マメキシタバ
 2. VIII. '65, 臥牛山, K. A
 41. *Catocala streckeri* STAUDINGER アサマキシタバ
 13. VI. '65, 新見市草間, K. A
 42. *Catocala hyperconnexa* SUGI アミメキシタバ
 2. VIII. '65, 臥牛山, K. A
 43. *Speiredonia helicina* HÜBNER ハグルマトモエ
 30. VIII. '64, 広瀬, S. M
 従来 *Speiredonia japonica* GUENEE ヤマトトモエと分けて記録されていたが,
 最近では同種であることが判明したので従来の記録中に本種があるかも知れない。
 44. *Ercheia umbrosa* BUTLER モンキムラサキクチャバ
 7. VII. '62, 高梁市玉, 脇本浩 (H. W) ; 15. VIII. '63, 玉島, S. M ; 5. IX. '65
 水源地, K. A
 45. *Aedia leucomelas* LINNE ナカシロシタバ
 31. VII. '65, 井倉, S. M
 46. *Anomis flava flava* FABRICIUS ワタアカキリバ

19. Ⅷ. '63 ; 21. Ⅷ. '63, 玉島, S.M
47. *Sypna fumosa* BUTLER クロシラフクチバ
24. Ⅶ. '63, 新見市古川, S.M ; 25. V. '65, 広瀬, S.M
48. *Hypersypnoides submarginata* WALKER オオシロテンクチバ
23. IX. '65, 水源池, K.A
49. *Pangrapta porphyrea* BUTLER シロツマキリアツバ
12. Ⅶ. '64, 若杉峠, S.M
50. *Pangrapta flavcmacula* STAUDINGER キモンツマキリアツバ
24. V. '63, 広瀬, S.M ; 9. VI. '65, カイワリ峠, S.M
51. *Pangrapta albistigna* HAMPSON ツマジロツマキリアツバ
12. VI. '64, 広瀬, S.M
52. *Diomea cremata* BUTLER ヒメムラサキクチバ
16. Ⅷ. '65, 正田, S.M
53. *Britha inambitiosa* LEECH チャイロアツバ
25. Ⅷ. '63, 玉島, S.M
54. *Hepatica linealis* LEECH シマアツバ
22. IX. '65, 旭町, T.T
55. *Lophomilia takao* SUGI ニセミカドアツバ
24. IV. '66, 旭町, T.T
56. *Plecoptera insignita* WILEMAN アトヘリヒトホシアツバ
7. IX. '65, 児島市宇野津, S.M
57. **Rivula auripalpis* BUTLER フタテンアツバ
27. IV. '64, 広瀬, S.M
58. *Aventiola pusilla* BUTLER クロハナアツバ
26. VI. '66, 久米郡福渡町福渡, K.A

Hypeninae アツバ亜科

59. *Hypena hampsonialis* WILEMAN オオトビモンアツバ
29. Ⅷ. '65, 正田, S.M
60. **Dichromia trigonalis* GUENEE タイワンキシタアツバ
24. V. '63 ; 27. IV. '64, 広瀬, S.M
61. *Rhynchina morosa* BUTLER シロスジトガリアツバ
30. Ⅷ. '64, 広瀬, S.M
62. *Sten-bergmania albomaculalis* BREMER シロテンアツバ
31. Ⅶ. '65, 新見市河本, S.M

Herminiinae クルマアツバ亜科

63. *Adrapsa ablualis* WALKER キマエアツバ
6. IX. '63, 玉島, S.M
64. *Zanclognatha subgriselda* SUGI ヒメツマオビアツバ

30. Ⅷ. '64, 広瀬, S.M
65. *Zanclognatha stramentacealis* BREMER ウラシロアツバ
10. IX. '63; 12. IX. '63, 玉島, S.M
66. **Zanclognatha grisealis* DENIS et SCHIFFERMÜLLER クロスジアツバ
9. V. '65, 草間, S.M; 9. VI. '65, カイワリ峠, S.M
67. *Zanclognatha arenosa* BUTLER ウスキミスジアツバ
25. V. '64, 広瀬, S.M
68. *Zanclognatha fascialis* LEECH オピアツバ
26. VI. '66, 苫田郡鏡野町越畑, K.A
69. *Zanclognatha fractalis* GUENEE オオシラナミアツバ
10. IX. '63; 16. IX. '63, 玉島, S.M
70. **Trisateles trilinealis* BREMER ミスジアツバ
9. V. '64, 草間, S.M; 25. V. '64, 広瀬, S.M; 9. VI. '65, カイワリ峠, S.M
71. *Bocana spacoalis* WALKER シロスジアツバ
25. V. '64; 12. VI. '64, 広瀬, S.M
72. *Epizeuxis pryeri* BUTLER シロテンムラサキアツバ
16. Ⅷ. '65, 正田, S.M

Notodontidae シャチホコガ科

1. *Peridea basilinea* WILEMAN ネスジシャチホコ
20. VI. '60; 3. Ⅷ. '60, 阿哲郡大佐町布瀬, K.A
2. *Peridea graeseri* STAUDINGER イシダシャチホコ
16. Ⅷ. '65, 正田, S.M
3. *Peridea lativitta* WILEMAN アカネシャチホコ
5. IX. '64, 河本ダム, S.M
4. *Hiradonta takaonis* MATSUMURA オオウスグロシャチホコ
31. Ⅶ. '65, 新見市石蟹, S.M; 16. Ⅷ. '65, 正田, S.M
5. *Takadonta takamukui* MATSUMURA タカムクシャチホコ
5. IX. '64, 河本ダム, S.M
6. *Epizaranga permagna* BUTLER アオバシャチホコ
24. IV. '66, 真庭郡湯原町湯原ダム, K.A
7. *Neophoesia fasciata japonica* OKANO ヘリスジシャチホコ
28. Ⅶ. '66, 奥津町, T.T
8. *Phalera takasagoensis takasagoensis* MATSUMURA タカサゴツマキシシャチホコ
11. Ⅷ. '63, 玉島, S.M; 20. Ⅷ. '65, 水源池, K.A
9. **Phalera minor* NAGANO クロツマキシシャチホコ
12. Ⅷ. '64, 旭町, H.O

Lymantriidae ドクガ科

1. *Dasychira conjuncta* WILEMAN スズキドクガ

16. VI. '63, 新見市足立, 青野孝昭 (T. A)
 2. *Lymantria bantaizana* MATSUMURA バンタイマイマイ
 20. VII. '66, 湯原, K. A
 3. **Euproctis eurvata* WILEMAN マガリキドクガ
 25. VIII. '63; 18. IX. '63, 玉島, S. M
 1966年に西大寺市 (K. A) ; 児島市 (S. M) の記録あり.

Lasiocampidae カレハガ科

1. *Kunugia yamadai* NAGANO ヤマダカレハ
 30. X. '62, 高梁市高梁, H. W; 26. X. '63, 玉島, S. M

Eupterotidae オビガ科

1. **Prismosticta hyalinata* BUTLER スカシオビガ
 29. IV. '64, 真庭郡川上村蛇ヶ山, 重井博 (H. S)

Thyatiridae トガリバガ科

1. **Kurama mirabilis* BUTLER サカハチトガリバ
 10. IV. '64, 栄町, 山砥克己 (K. Y)
 2. **Demopsestis punctigera* BUTLER ホシボシトガリバ
 18. IV. '65, 倉敷市美和町, T. T

Cyclidiidae オオカギバガ科

1. *Mimozethes argentilinearia* LEECH ギンスジカギバ
 26. VI. '66, 越畑, K. A

Drepanidae カギバガ科

1. **Pseudalbara parvula* LEECH ヒメハイイロカギバ
 25. V. '64, 広瀬, S. M; 16. VIII. '65, 井倉, S. M

Geometridae ジャクガ科

Oenochrominae ホシジャク亜科

1. *Alsophilodes acroama* INOUE スジモンフユジャク
 8. IV. '62, 高梁市玉川, H. S
 2. *Inurois punctigera* PROUT クロテンフユジャク
 27. XII. '65; 7. I. '66, 新見, T. O

Geometrinae アオジャク亜科

3. **Gelasma albistrigata* WARREN スジモンツバメアオジャク

25. V. '64, 広瀬, S.M
4. **Gelasma fuscofrons* INOUE ズグロツバメアオジャク
9. VI. '65, カイワリ峠, S.M
5. **Thalassodes quadraria* GUENEE クスアオジャク
21. VIII. '63; 22. IX. '63; 16. X. '64, 玉島, S.M
6. *Diplodesma ussuriaria* BREMER ナミスジコアオジャク
24. VII. '63, 新見市吉川, S.M
7. **Chloromachia infracta* WILEMAN ヒメシロフアオジャク
31. VII. '65, 正田, S.M

Sterrhinae ヒメジャク亜科

8. **Calothysanis apicirosea* PROUT フトベニスジヒメジャク
11. VIII. '63, 玉島; 25. V. '64, 広瀬; 2. VIII. '65, カイワリ峠, S.M
9. *Calothysanis dichela* PROUT ウスベニスジヒメジャク
11. VIII. '63, 玉島, S.M
10. *Problepsis riminota* PROUT ウススジオオシロヒメジャク
3. VII. '60, 布瀬, K.A
11. *Scopula impersonata macescens* BUTLER ハイイロヒメジャク
26. IX. '65, 正田, S.M
12. **Scopula emissaria lactea* BUTLER キトガリヒメジャク
21. VIII. '63, 玉島; 28. VI. '64, 広瀬; 29. VIII. '65, 正田, S.M
13. **Scopula epiorrhoe* PROUT ギンパネヒメジャク
12. VI. '64, 広瀬; 26. IX. '65, 正田, S.M
14. *Scopula modicaria* LEECH モントビヒメジャク
2. VIII. '65, カイワリ峠, S.M
15. *Scopula apicipunctata* CHRISTOPH クロテンシロヒメジャク
5. VI. '64, 陶, S.M
16. *Scopula pudicaria* MOTSCHULSKY クロスジシロヒメジャク
19. VI. '66, 井倉, K.A
17. *Scopula lactata nupta* BUTLER サザナミシロヒメジャク
9. V. '64, 草間, S.M
18. *Scopula prouti* DJAKONOV ウラクロスジシロヒメジャク
29. VI. '64, 陶, S.M
19. *Scopula analogia* INOUE ウラホソスジシロヒメジャク
12. VI. '64, 広瀬, S.M
20. **Scopula superciliata* PROUT ヨツボシウスキヒメジャク
25. V. '64, 広瀬, S.M
21. **Scopula personata* PROUT ナミスジチビヒメジャク
15. VIII. '64, 倉敷市戎町, T.T
22. *Sterrha salutaris* CHRISTOPH ウスクロテンヒメジャク
17. VII. '66, 児島市林, S.M

23. *Sterrha demudaria* PROUT ウスモンキヒメジャク
28. VI. '64, 広瀬, S.M

Larentiinae ナミジャク亜科

24. *Trichopteryx microloba* INOUE ヒメシタコバネナミジャク
24. IV. '66, 湯原, K.A
25. *Otoplecta frigida* BUTLER クロフシロナミジャク
8. IV. '62, 玉川, H.S
26. **Carige irrorata* BUTLER ヒロバトガリナミジャク
4. VII. '65, 井倉, T.T
27. *Baptria tibiale aterrima* BUTLER シロホソオビクロナミジャク
26. V. '63, 真庭郡新庄村高下, 近藤光宏(T.K); 2. VI. '65, 新見市明石峠 S.M
28. **Sauris nanaris* LEECH ヒゲブトナミジャク
21. VIII. '65, 旭町, T.T
29. *Orthonama shirahatai* INOUE ウスイロトビスジナミジャク
14. X. '63; 16. X. '63, 玉島, S.M
30. *Coenotephria obscura* BUTLER フタモンクロナミジャク
27. VIII. '63, 広瀬; 5. IX. '64, 石蟹, S.M
31. *Epirrhoe supergressa supergressa* BUTLER フタシロスジナミジャク
2. VI. '65, 明石峠, S.M
32. *Triphosa sericata sericata* BUTLER マエモンウスグロオオナミジャク
16. VI. '63, 川上郡成羽町上光谷, H.S
33. *Philereme corrugata* BUTLER エゾヤエナミジャク
24. V. '63, 広瀬, S.M
34. *Thera praefecta* PROUT オオクロオビナミジャク
26. V. '63, 真庭郡新庄村毛無山, H.S
35. *Heterothera postalbida* WILEMAN シロシタトビイロナミジャク
23. V. '66, 児島市福田駅, S.M
36. *Laciniodes denigrata ussuriensis* PROUT セシロナミジャク
7. IX. '65, 新見, T.O
37. *Eupithecia sophia* BUTLER ナカアオナミジャク
14. X. '63, 陶, S.M

Ennominae エダジャク亜科

38. *Calospilos sylvata fulvobasalis* WARREN ヒメマダラエダジャク
28. VII. '63, 苫田郡奥津町上杉山, H.S; 5. IX. '64, 河本ダム, S.M
39. **Synergia ichinosawana* MATSUMURA マルハグルマエダジャク
25. V. '64, 広瀬; 12. VII. '64, 若杉峠, S.M
40. **Synergia esther esther* BUTLER クロハグルマエダジャク
25. V. '64, 広瀬, S.M

41. *Apopetelia chlorophnodes* WEHRLI オオヨスジアカエダジャク
24. VII. '63, 吉川, S.M
42. **Hypophyra terrosa cyanargenta* LEECH ウラキトガリエダジャク
43. *Metabraxas clerica clerica* BUTLER オオシロエダジャク
25. VIII. '65, 奥津, H.O
44. *Arichanna tetrica tetrica* BUTLER キジマエダジャク
26. V. '63, 真庭郡新庄村, T.A
45. *Peribatodes simpliciaris* LEECH オレクギエダジャク
7. IX. '63, 総社市豪溪 T.K
46. **Chogada venustaria* LEECH ソトシロモンエダジャク
2. VI. '64, 広瀬, S.M
47. **Boarmia lunifera* BUTLER オオバナミガタエダジャク
24. VII. '63, 陶; 7. VIII. '64, 井倉, S.M
48. *Boarmia fumosaria* LEECH クロオオモンエダジャク
19. VI. '66, 井倉, 那須敏 (S.N)
49. *Heterarmia costipunctaria* LEECH マエモンキエダジャク
28. X. '63, 玉島, S.M
50. *Ectropis excellens* BUTLER オオトビスジエダジャク
VI. '63, 玉島; 28. VI. '64, 広瀬, S.M
51. *Racotis petrosa* BUTLER ナミスジエダジャク
26. VI. '66, 高梁市滝山, H.O
52. *Aethalura ignobilis ignobilis* BUTLER ハンノトビスジエダジャク
14. V. '66, 福田駅, S.M
53. *Duliophyle agitata* BUTLER ヒロオビエダジャク
7. IX. '63, 豪溪 2 exs. T.K & T.A
54. *Scionomia mendica mendica* BUTLER ソトキクロエダジャク
10. IX. '65, 新見, T.O
55. *Megabiston plumosaria* LEECH チャエダジャク
25. VIII. '65, 奥津, H.O
56. *Scardamia aurantiacaria* BREMER ハスオビキエダジャク
28. VI. '64; 30. VIII. '64, 広瀬, S.M
57. *Acrodontis fumosa fumosa* PROUT オオノコメエダジャク
30. IX. '65, 宇野津, S.M; 14. IX. '65; 1. X. '65, 新見, T.O
58. *Cepphis advenaria* HÜBNER アトボシエダジャク
9. V. '64, 草間, S.M

Epiplemidae フタオガ科

1. *Epiplema plagifera* BUTLER クロオビシロフタオ
12. VI. '66, 福田駅, S.M

Thyrididae マドガ科

1. **Herdonia osacesalis osacesalis* WALKER モリヤママドガ
22. VI. '65, 旭町, T. T ; 7. VII. '65, 兜島市大池, S. M
1966年に岡山市門田で3exs. 採集されている.

Pyralididae メイガ科

Crambinae ツトガ亜科

1. *Pediasia atrisquamalis* HAMPSON クロフタオビツトガ
7. IX. '63, 豪溪, T. K
2. *Miyakea expansa* BUTLER ソトモンツトガ
8. VII. '65, 石蟹, S. M

Schoenobiinae オオメイガ亜科

3. *Schoenobius gigantellus* DENIS et SCHIFFERMÜLLER クロフキオオメイガ
29. VIII. '63 ; 12. IX. '63, 玉島, S. M

Phycitinae マダラメイガ亜科

4. *Sandrabatis crassiella* RAGONOT ハラウスキマダラメイガ
31. VII. '65, 新見市河本, S. M
5. *Nephoptyx intercisella* WILEMAN ヤマトマダラメイガ
20. VII. '66, 湯原, K. A
6. *Eurhodope dichromella* RAGONOT フタグロマダラメイガ
7. VIII. '63, 玉島, S. M

Epipaschiinae フトメイガ亜科

7. *Lepidogma rufescens* HAMPSON クロテンアオフトメイガ
7. VIII. '64, 井倉, S. M
8. *Macalla obscura* MOORE ウスグロフトメイガ
29. VIII. '65, 正田, S. M

Pyralidinae シマメイガ亜科

9. *Hypsopygia mauritialis* BOISDUVAL モモイロシマメイガ
3. VII. '64, 陶, S. M
10. *Stemmatophora valida* BUTLER トビイロフタスジシマメイガ
18. VI. '66, 水源池, K. A
11. *Fujimacia bicoloralis* LEECH マエモンシマメイガ
10. IX. '63, 玉島, S. M

Pyraustinae ノメイガ亜科

12. *Cirrhochrista brizoalis* WALKER モンキシロノメイガ
31. VII. '65, 新見市河本, S. M
13. *Lophopalpia pauperalis* LEECH トビモンフタスジノメイガ
23. VI. '64, 広瀬, S. M
14. *Bocchoris aptalis usitata* BUTLER ナカキノメイガ
29. VI. '64, 陶, S. M
15. *Botyodes principalis* LEECH オオキノメイガ
23. VIII. '63, 玉島, S. M ; 7. IX. '63, 豪溪, T. K
16. *Botyodes diniasalis* WALKER タイワンウスキノメイガ
3. IV. '65, 水源池, K. A
17. **Syllepte segnalis* LEECH モンシロクロノメイガ
25. V. '64, 広瀬, S. M
18. *Lygropia poltialis* WALKER ウスグロヨツモンノメイガ
26. IX. '65, 正田, S. M
19. *Pachyzancla magna* BUTLER キモンウスグロノメイガ
7. IX. '63, 豪溪, T. K
20. *Loxostege palealis* DENIS et SCHIFFERMÜLLER ウラグロシロノメイガ
26. IX. '65, 正田, S. M
21. *Loxostege umbrosalis* WARREN マエキシタグロノメイガ
5. VI. '66, 越畑, K. A
22. *Uresiphita prunipennis* BUTLER ウスベニオオノメキガ
16. VIII. '65, 正田, S. M
23. *Phlyctaenia verbascalis* DENIS et SCHIFFERMÜLLER ヒメトガリノメイガ
11. VIII. '63 ; 10. IX. '63 ; 22. IX. '63, 玉島 ; 22. V. '64, 陶, S. M
24. *Pyrausta sikkima* MOORE キオビトビノメイガ
12. VII. '64, 若杉峠, S. M
25. *Pyrausta ochrealis* WILEMAN マエウスモンキノメイガ
22. IX. '63, 玉島, S. M

Phaloniidae ホソハマキガ科

1. *Euxanthis dives* BUTLER ギンモンホソハマキ
29. VIII. '65, 正田, S. M

Olethreutidae ヒメハマキガ科

1. *Glapholitha* (s. str.) *molesta* BUSCK ナシノヒメシンクイ
28. IV. '64, 広瀬, S. M
2. *Laspeyresia koenigiana* FABRICIUS ベニモンヒメハマキ
30. IX. '63, 玉島, S. M

3. *Epinotia leucantha* MEYRICK クロモンシロヒメハマキ
9. VIII. '63; 18. IX. '63, 玉島, S. M; 28. VI. '64, 広瀬, S. M
4. *Eusosma ancyrota* MEYRICK モッコクハマキ
2. VIII. '65, カイワリ峠, S. M
5. *Epiblema inconspicua* WALSINGHAM クロウンモンハマキ
12. VI. '64, 広瀬, S. M

Tortricidae ハマキガ科

1. *Archips ingentana* CHRISTOPH オオアトハマキ
31. VII. '65, 新見市河本, S. M

Ethmiidae ヒロバスガ科

1. *Ethmia assamensis* BUTLER スジマダラヒロバスガ
25. IV. '66, 門田, T. T

Glyphipterigidae ハマキモドキガ科

1. *Lamprystica igneola* STRINGER クロホソハマキモドキ
12. VII. '64, 若杉峠, S. M

Lyonetiidae モグリガ科

1. *Decadarchis atririvis* MEYRICK クロスジモグリガ
2. VIII. '65, カイワリ峠, S. M

Tineidae ヒロズコガ科

1. *Hypophrictis capnomicta* MEYRICK マダラマルハヒロズコガ
17. VII. '66, 林, S. M
2. *Homalopsycha agglutinata* MEYRICK ナガバヒロズコガ
29. III. '64, 陶, S. M; 26. IV. '64, 旭町, H. S

Adelidae ヒゲナガガ科

1. *Nemophora umbripennis* STRINGER キオビクロヒゲナガ
17. IV. '64, 新見市豊永, H. S
2. *Nemophora raddei* REBEL ゴマダラヒゲナガ
29. IV. '64, 川上郡川上町芋ヶ谷, H. S

文献に出ている疑問を持たれていたが、産することが確認されたもの。

Noctuidae ヤガ科

Nycteoliinae キノカワガ亜科

73. *Eligma narcissus* CRAMER シンジュキノカワガ
5. X. '50; 7. X. '50, 西大寺市金山, 久山清採集所蔵.

参 考 文 献

1. 岡山県 (1930) 岡山県内生物目録 [34科 508種不明27種].
2. 片山豊八 (1959) 美作産蝶蛾目録 [46科 859種] 岡山と昆虫.
3. 片山豊八 (1960) 黒沢山採集記 [15科 202種] 美作の自然 (6) : 7-13
4. 道信順 (1961) 黒沢山「蛾類一覧」に続いて [13科76種] 美作の自然 (7) : 37-38
5. 楨本精二 (1961) 都窪郡福田村産蛾類目録 [17科 113種] すずむし11 (1) : 1-2
6. すずむし13 (2) -15 (4) 記載の蛾類関係論文, 既発表のものは番号の右肩に*印を付している.
7. 杉繁郎・楨本精二 (1965) 岡山県下におけるシンジュキノカワガの採集記録, 蛾類通信 (38) : 334

追 記

赤枝一弘氏より, つぎのとおり岡山市半田山植物園所蔵の蛾の標本を調査して未記録種を知らせて頂いたので付記する.

Noctuidae ヤガ科

Nycteoliinae キノカワガ亜科

74. *Hylophilodes tsukusensis* NAGANO ツクシリング
12. VII. '60, 岡山市半田山

Catocalinae シタバガ亜科

75. *Achaea janata* LINNE シラホシアシプトクチバ
13. VIII. '60, 半田山
76. *Thyas dotata* FABRICIUS ツキワクチバ
20. VII. '60, 半田山

以上3種を加えると岡山県産の蛾の合計は1343種となる.

御通知下さった赤枝一弘氏に感謝します.

おとしぶみ

クロコノマを総社市で採る

クロコノマチヨウが岡山県にもわずかながら採集されていることは周知の通りであるが本年, 倉敷市の北方に位置する総社市でも採集されたので報告する.

Melanitis phedima oitensis MATSUMURA クロコノマチヨウ秋型

1♂, Kodera, Soja City, Okayama Pref., Aug. 4, 1966, FUMIKO KONDÔ leg.

本個体は, 妹の文字が桃畑で木影を飛翔中のものを発見し, 帽子で捕えたものである. 標本は倉敷昆虫館に保存展示されている. (近藤要一)

岡山県北部における蛾類分布資料

道 信 順

(津山市田町119)

蛾の分布については、片山豊八氏が昭和初期から長期にわたって調べられており、南部に於ては最近、楨本精二氏が県下の記録と分布について啓蒙されており、赤枝一弘氏、青野孝昭氏等の報文もあり、種類数が多く複雑な蛾相も明らかになつてきています。採集品を整理したところ、岡山県未記録と考えられるものが下記の通り、かなりありますので報告します。未記録種の調査については、楨本精二氏の手をわずらわせたことを深謝いたします。採集範囲は津山市、苫田郡、勝田郡、英田郡、真庭郡で主として燈火による採集であり、一部糖蜜によります。

学名、和名は原色昆虫大図鑑（北隆館）1959年版のものを使用しています。

Notodontidae ジャチホコガ科

1. *Drymonia dodonides* SCHAUDINGER トビモンジャチホコ
10. V. 1964, 英田郡若杉峠, 燈火
2. *Mimodonta albicosta* MATSUMURA マエジロジャチホコ
30. VII. 1962, 英田郡後山, 燈火; 17. VIII. 1966, 苫田郡加茂町, 燈火
3. *Desmeocraera pryeri* LEECH プライヤアオジャチホコ
28. VI. 1962, 苫田郡泉山, 燈火
4. *Pydna junctura* MOORE トリゲキジャチホコ
10. V. 1964, 英田郡若杉峠, 燈火
5. *Fusapteryx ladislai* OBERTHUR シロスジエグリジャチホコ
25. VI. 1961, 勝田郡滝山, 燈火
6. *Lophopteryx hoegei* GRAESER スジエグリジャチホコ
22. VIII. 1961, 津山市黒沢山, 燈火; 3. VI. 1961, 津山市黒沢山
7. *Shachia circumscripta* BUTLER ニツコウジャチホコ
30. VII. 1962, 英田郡後山, 燈火
8. *Pseudofentonia nihonica* WILEMAN オオネグロジャチホコ
30. VII. 1962, 英田郡後山, 燈火

Thyatiridae トガリバガ科

9. *Cymatochrocis dieckmanni* GRAESER ウスベニアヤトガリバ
19. VIII. 1960, 勝田郡滝山, 燈火; 18. VIII. 1965, 苫田郡加茂町, 燈火
10. *Mimopsestis basalis* WILEMAN ネグロトガリバ
28. VI. 1962, 苫田郡泉山, 燈火

Lasiocampidae カレハガ科

11. *Amurilla subpurpurea subpurpurea* BUTLER スカシカレハ
13. VII. 1963, 勝田郡滝山, 昼間に羽化直後のもの

Noctuidae ヤガ科

12. *Polychrysis mikadina* BUTLER シーモンキンウワバ
1. VI. 1962, 津山市黒沢山, 燈火; 30. VI. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
13. *Anacronicta plumbea* BUTLER ナマリケンモン
16. VI. 1962, 津山市黒沢山, 燈火; 29. VIII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
14. *Canna sugitanii* NAGANO スギタニアオケンモン
28. VI. 1962, 苦田郡泉山, 燈火; 19. VIII. 1960, 勝田郡滝山, 燈火
15. *Daseochaeta viridis* LEECH ミドリケンモン
10. XI. 1964, 津山市黒沢山, 燈火
16. *Harrisimemna marmorata* HAMPSON スギタニゴマケンモン (Fig. 1)
30. VII. 1962, 英田郡後山, 燈火
17. *Paragabara flavomacula* OBERTHÜR キボシアツバ
12. VIII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火; 9. VII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
18. *Pyralidesthes amata* BUTLER ベニスジアツバ
29. VIII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
19. *Pangrapta vasava* BUTLER ミツボシツマキリアツバ
9. VII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火; 12. VIII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
20. *Rhesala moestalis* WALKER マエテンアツバ
2. VIII. 1966, 苦田郡羽出, 昼間たたき網にて
21. *Rivula confusa* WILEMAN スジモンアツバ
18. VIII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
22. *Zanclognatha aegrota* BUTLER ミツオビキンアツバ
30. VII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
23. *Pyrrhia bifasciata pryeri* LEECH ウスオビヤガ
25. VIII. 1963, 津山市黒沢山, 燈火; 9. VII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
24. *Clavipalpula aurariae* OBERTHÜR キンイロキリガ
29. IV. 1963, 津山市黒沢山, 燈火
25. *Xylomyges saxeae* LEECH ケンモンキリガ
29. IV. 1963, 津山市黒沢山, 燈火; 10. V. 1964, 英田郡若杉峠, 燈火
26. *Orthosia limbata* BUTLER シロヘリキリガ
23. IV. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
27. *Orthosia cedermarki* BRYK ウスベニキリガ
23. IV. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
28. *Blepharidia costalis* BUTLER キマエキリガ
10. XI. 1964, 津山市黒沢山, 燈火



Fig. 1

29. *Telorta edentata* LEECH キトガリキリガ
10. XI. 1964, 津山市黒沢山, 燈火
30. *Blepharita amica ussuriensis* SHELJUZHKO ムラサキハガタヨトウ
29. X. 1960, 苫田郡泉山, 糖蜜
31. *Meganephria funesta* LEECH ホソバハガタヨトウ
10. XI. 1964, 津山市黒沢山, 燈火
32. *Chytonix fodinae* OBERTHÜR セアカヨトウ
9. VII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火; 24. VIII. 1962, 津山市黒沢山, 燈火
33. *Euplexia illustrata* GRAESER シラオビアカガネヨトウ
6. VI. 1959, 勝田郡滝山, 昼間
34. *Xenotrachea albidisca* MOORE シロフアオヨトウ
19. VIII. 1960, 勝田郡滝山, 燈火
35. *Dipterygina cupreotincta* SUGI ウスクロモクメヨトウ
1. VI. 1962, 津山市黒沢山, 燈火
36. *Virgo datanidia* BUTLER トガリヨトウ
19. V. 1964, 津山市黒沢山, 燈火
37. *Calloplistria placodoides* GUENÉE アヤナミツマキリヨトウ
18. VIII. 1965, 苫田郡加茂町, 燈火
38. *Chasminodes albonitens* BREMER クロハナギンガ
30. VII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
39. *Chasminodes pseudalbonitens* SUGI ムジギンガ
19. IX. 1964, 津山市黒沢山, 燈火
40. *Apamea askoldis* OBERTHÜR コマエアカシロヨトウ
9. VII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
41. *Athetis cinerascens* MOTSCHULSKY クロテンヨトウ
23. IV. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
42. *Dexiadena arcta* LEDERER シマヨトウ
29. VIII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
43. *Mimanuga japonica* LEECH ノコバフサヤガ
29. IV. 1963, 津山市黒沢山, 燈火
44. *Iragaoles nobilis* STAUDINGER マエキリンガ
28. VI. 1962, 苫田郡泉山, 燈火; 30. VII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
45. *Hyperstrotia flavipuncta* LEECH モンキコヤガ
30. VII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火; 24. VIII. 1962, 津山市黒沢山, 燈火
46. *Unca costimacula japonica* WARREN マエモンコヤガ
24. VIII. 1962, 津山市黒沢山, 燈火
47. *Hapalotis venustula* HÜBNER シラクモコヤガ
12. VIII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
48. *Pelamia electaria* BREMER ユミモンクチバ
25. VII. 1959, 苫田郡上齊原, 昼間

49. *Sypna lucilla* BUTLER オオシラフクチバ
29. VIII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
50. *Hypocala moorei* BUTLER ムーアキシタクチバ
3. VIII. 1957, 苫田郡阿波村, 昼間
51. *Diomea jankowskii* OBERTHÜR マエヘリモンクチバ
23. VI. 1965, 津山市黒沢山, 燈火

Lymantriidae ドクガ科

52. *Lymantria minomonis* ミノモマイマイ
19. VIII. 1960, 勝田郡滝山, 燈火; 24. VIII. 1962, 津山市黒沢山, 燈火
53. *Euproctis torasan* HOLLAND トラサンドクガ (Fig. 2)
12. VIII. 1966, 津山市
黒沢山, 燈火



Fig. 2

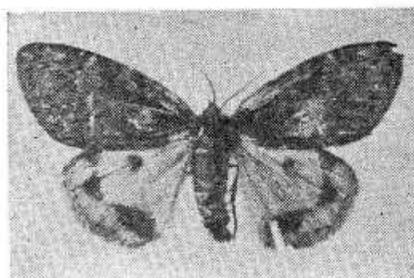


Fig. 3

54. *Dasychira nachiensis* MARUMO
ナチキシタドクガ (Fig. 3)
17. VIII. 1966, 苫田郡加茂町, 燈火

Geometridae ジャクガ科

55. *Problepsis diazoma* PROUT クロスジオオシロヒメジャク
19. VIII. 1960, 勝田郡滝山, 燈火
56. *Sterrha fuedata* BUTLER クロテントビヒメジャク
18. VIII. 1965, 苫田郡加茂町, 燈火
57. *Brabira artemidora artemidora* OBERTHÜR キリバネホソナミジャク
18. VIII. 1965, 苫田郡加茂町, 燈火
58. *Chloroclystis excisa* BUTLER ソトシロオビナミジャク
10. V. 1964, 英田郡若杉峠, 燈火
59. *Venusia megaspilata* WARREN フタモンコナミジャク
13. IV. 1958, 勝田郡滝山, 昼間
60. *Chloroclystis coronata lucinda* BUTLER クロスジアオナミジャク
30. VII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火; 12. VIII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
61. *Cymnoscelis esakii* INOUE ケブカチビナミジャク
30. VII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
62. *Trichopteryx hemana* BUTLER シタコバネナミジャク
23. IV. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
63. *Trichopteryx terranea* BUTLER チャオビコバネナミジャク
23. IV. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
64. *Hydrelia nisaria* CHRISTOPH テンスジヒメナミジャク
12. VIII. 1966, 津山市黒沢山, 燈火

65. *Myrteta tinagmaria tinagmaria* GUENÉE ナミスジシロエダシヤク
29. IV. 1963, 津山市黒沢山, 燈火
66. *Cabera griseolimbata griseolimbata* OBERTHÜR アトグロアミメエダシヤク
19. VIII. 1960, 勝田郡滝山, 燈火
67. *Apopetelia morosa morosa* BUTLER ヨスジアカエダシヤク
28. VI. 1962, 苫田郡泉山, 燈火
68. *Krananda semihyalinata* MOORE スカシエダシヤク
1. VI. 1962, 津山市黒沢山, 燈火
69. *Arichanna albomacularia* LEECH シロホシエダシヤク
10. V. 1964, 英田郡若杉峠, 燈火
70. *Heterarmia dissimilis* STAUDINGER トガリスジグロエダシヤク
8. VI. 1956, 津山市田町, 燈火
71. *Dulioophyle majuscularia* LEECH オオトビエダシヤク
16. VIII. 1964, 勝田郡滝山, 昼間
72. *Wilemanus nitobei* NITOBE ニトベエダシヤク
10. XI. 1964, 津山市黒沢山, 燈火
73. *Medasina nikkonis* BUTLER ニッコウエダシヤク
29. IV. 1963, 津山市黒沢山, 燈火
74. *Ceruncina retractaria senilis* BUTLER ウスクモエダシヤク
19. VIII. 1960, 勝田郡滝山, 燈火
75. *Ennomos autumnaria nephotropa* PROUT キリバエダシヤク
19. VIII. 1960, 勝田郡滝山, 燈火
76. *Ocoelophora lentiginosaria lentiginosaria* LEECH テンモンチビエダシヤク
30. VII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
77. *Selenia sordidaria schojina* WEHRLI ハガタムラサキエダシヤク
30. VII. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
78. *Selenia acustaria* LEECH ウスムラサキエダシヤク
10. V. 1964, 英田郡若杉峠, 燈火
79. *Garaeus specularis mactans* BUTLER キバラエダシヤク
7. VII. 1932, 津山市黒沢山, 燈火; 3. VI. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
80. *Plagodis dolabraria* ナカキエダシヤク
1. VI. 1932, 津山市黒沢山, 燈火
81. *Pseuderannis lomozeria lomozeria* PROUT ウ斯巴キエダシヤク
23. IV. 1966, 津山市黒沢山, 燈火

Pyralididae メイガ科

82. *Cryptoblabes loxiella* RAGONOT ヒメシラフマダラメイガ
30. VII. 1962, 英田郡後山, 燈火
83. *Calguia defiguralis* WALKER ウスアカマダラメイガ
23. VI. 1965, 津山市黒沢山, 燈火; 24. VIII. 1962, 津山市田町, 燈火
84. *Acrobasis ferruginella* WILEMAN アカフマダラメイガ

18. Ⅷ. 1966, 津山市黒沢山, 燈火
85. *Crambus diplogrammus* ZELLER ウスグロスジツトガ
30. Ⅶ. 1962, 英田郡後山, 燈火
86. *Calamotropha nigripunctella* LEECH キスジツトガ
18. Ⅷ. 1965, 苫田郡加茂町, 燈火
87. *Nymphula bifurcalis* WILEMAN ゼニガサミズメイガ
18. Ⅷ. 1965, 苫田郡加茂町, 燈火
88. *Clupeosoma pryeri* BUTLER ナカアカノメイガ
30. Ⅶ. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
89. *Nacoleia commixta* BUTLER シロテンキノメイガ
30. Ⅶ. 1965, 津山市黒沢山, 燈火

Sphingidae スズメガ科

90. *K. consimilis* クロテンゲンモンズズメ
1. Ⅶ. 1956, 英田郡若杉峠, 昼間, 静止中

Heterogeneidae イラガ科

91. *Ceratonema butleri* KAWADA ウストビイラガ
18. Ⅷ. 1962, 勝田郡広戸奥津川, 昼間, 静止中

Bombycidae カイコガ科

92. *Andraca gracilis* BUTLER カギバモドキ
28. Ⅵ. 1962, 苫田郡泉山, 燈火; 10. Ⅴ. 1964, 英田郡若杉峠, 燈火

Epipyropidae セミヤドリガ科

93. *Epipomponia nawai* DYAR セミヤドリガ
12. Ⅷ. 1955, 真庭郡勝山町, ツクツクボウシに寄生していたものが羽化.

Epiplemidae フタオガ科

94. *Schistomitra funeralis* BUTLER
フジキオビ (Fig. 4)
24. Ⅴ. 1964, 苫田郡羽出村, 昼間飛んでいたもの.

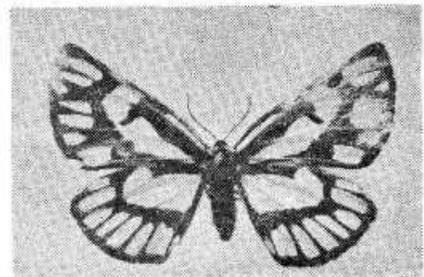


Fig. 4

Nolidae コブガ科

95. *Mimerastria mandschuriana* OBERTHÜR リンゴコブガ
23. VI. 1965, 津山市黒沢山, 燈火
96. *Roeselia gigantula gigas* BUTLER オオコブガ
24. VIII. 1962, 津山市, 燈火

Aegeriidae スカシバガ科

97. *Melittia bombiliformis* CRAMER オオモボトスカシバ
6. VIII. 1956, 苫田郡泉山, 昼間飛んでいたもの。

以上97種を報告しますが、大体山地性のものと、4月又は10月、11月の季節のものが多いようです。この点から山地及び季節を目あてに燈火のみでなく、糖蜜などでさがせば、まだまだ未記録の種がいることと思われまます。

1966年採集会報告

6月26日(日) 好天に恵まれ、初めてのマイクロバスの旅を楽しむ。

当初の計画を変更して、泉山より更に奥地の苫田郡花知仙を目ざし、倉敷駅前を6:30に発車。

岡山駅前で、2~3人の会員、カメラマンの方が乗り合わず。

9:30には花知仙登山口へ到着、と思っていたより早い。

当地発2:30まで生態写真・採集と、それぞれに思うぞんぶん腕をふるうことができた。

小甲虫・カミキリなど収獲はあつたが、全般的に個体数は少ないように思われた。

5:50無事倉敷へ帰着。以下に参加者をあげ、思い出とともに記録にとどめたい。

(順序不動敬称略) 浅野憲一, 脇本浩, 熊川謙, 赤枝一弘, 熊川雅之, 青野孝昭, 那須敏, 小野洋, 黒田祐一, 佐々木隆, 宇野弘之, 鴨方高校生2名, 重井博(顧問), 山西哲男(山陽新聞社カメラマン), 近藤光宏。

記(T)



西大寺産スズメガ発生状況

赤 枝 一 弘
 (岡山県西大寺市益野190 D-42)

種名	5 月		6 月			7 月					8 月
	14日	9日	18日	23日	25日	1日	10日	13日	18日	24日	1日
エビガラスズメ									○	○	
シモフリスズメ			○			○	◎	◎	◎	○	
ホソバスズメ									○		
トビイロスズメ										○	
モモスズメ			◎	○							◎
クチバスズメ				◎	◎	◎	◎		◎		
エゾスズメ								○			
クルマスズメ			○	●	●	◎	◎	◎	●	●	◎
ブドウスズメ					○						
ベニスズメ	○			○	○			○			
キイロスズメ				○		○	◎				
コスズメ		◎	◎	●	●	●		◎	◎	◎	◎
セスジスズメ									○		

調査地 西大寺市河本橋 水銀燈

西大寺市水源池 水銀燈

○ 1頭のみ ◎ 2~4頭 ● 5頭以上

等者は、すずむし Vol. 15, No. 3 に1965年8月~10月までの西大寺産スズメガの発生状況を発表した。が本年は前半の5~7月までを発表させてもらう。昨年記録し本年この時期までに記録できなかつた種はクロスズメ、モンホソバスズメ、ウチスズメ、ウンモンズメ、ホシホウジャク、ヒメスズメ、の6種で昼行性のホシホウジャクを除いた5種は西大寺市では少ない種と言えよう。

エビガラスズメはこの時期には少なく、逆に8月以降あまり採れないクチバスズメは多産した。クルマスズメとコスズメは全発生期間中切れ目なく採れ、キイロスズメは7月下旬に一度姿を消し8月に再び現われるようである。

昨年採れず本年採れた種はホソバスズメ、トビイロスズメ、エゾスズメ、ブドウスズメの四種である。

Oxyambylyx ochracea BUTLER ホソバスズメ

18. VII. 1966, 西大寺市水源池

本種は西大寺市未記録である。最近県北でホソバとモンホソバは大量に採集され、ホソバスズメ属の株は暴落したが、県南ではまだ珍種に属す。これで西大寺市にはホソバとモンホソバの両種共に産することが分つた。

Clanis bilineata WALKER トビイロスズメ

24. VII. 1966, 西大寺市水源池

市内各地で採れるがあまり多くはない。

Phillosphingia dissimilis BREMER エゾスズメ

13. VII. 1966, 西大寺市水源池

西大寺市未記録種である。県南では倉敷でも記録があるが少ない。発生期間も他のスズメガより短く、県下でもあまり採れていない。

Acosmeryx castanea ROTHSCHILD et JORDAN ブドウスズメ

25. VI. 1966, 西大寺市河本橋

西大寺市では過去に1度記録があり、倉敷でも記録はあるが少ない。那須敏氏も本年同所で1個体採集している。

おとしぶみ

モリヤママダガ岡山市に産す

モリヤママダガ *Herdonia osacesalis osacesalis* WALKER は昨年、児島市、倉敷市で一頭ずつ採集されたが、岡山産の三個体を得たので発表しておく。

岡山市門田 17. VI. 1966, 近藤理採集

" 28. VI. 1966, "

" 30. VI. 1966, "

いずれも勉強中蛍光灯に飛来したとのこと。三頭ともきわめて新鮮である。このようすでは、岡山市内にはかなり発生したものと思われる。標本は私が保存している。

(田辺恒彰)

ダイセンシジミ臥牛山に産す

ダイセンシジミは岡山県では県北の中国山地脊陵地帯と高梁川流域の草間に産することが知られていたが、今回、はからずも高梁川中流域の臥牛山で本種の右前翅を拾い、本種が臥牛山にも生息しているらしいことを確認したので報告しておく。

Wagimo signata BUTLER f. *quercivora* STAUDINGER ダイセンシジミ

1 right fore wing, Mt. Gagyû, Takahashi City, Okayama Pref., Aug. 12, 1966,
NAKAMURA leg. (中村具見)

アケビコンボウハバチ羽化に成功

近 藤 光 宏

(倉敷市住吉町)

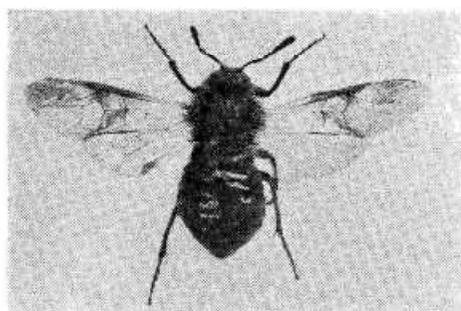


Fig. 1 アケビコンボウハバチ成虫

コンボウハバチ科 CIMBICIDAE のものは、稀なものが多いとされているが、その中であつて本種 *Zaraea akepii* TAKEUCHI アケビコンボウハバチは、普通に産するようである。それにしても発生は早春の頃で年一回、成虫を得るためには、発生期に行きあたらないとかなりむずかしいようである。

昨年やつと本種の食草であるアケビ（摂食中のものはイツツバアケビ）の葉上において、幼虫 3exs. を採集することができ、飼育していたところ、このほど Fig. 1 のような 1 ♀ を羽化させることができた。

県下における本科はもとより、本種についての飼育例は見あたらないので、ここに飼育経過をとりまとめて報告しておく。

20. V. 1962

終令幼虫 3exs. を高梁市玉川町の山で記録。摂食中のイツツバアケビとともに持ち帰る当日は、本会主催の採集会。

24. V. 1962

2exs. 朽木中に営繭、繭の色は黄緑。

11. I. 1963

鉢の中に入れていた朽木をとり出して、繭の一部を切開したところいずれも前蛹であつた。終令幼虫を少しおしちぢめたようになっており色は黒ずんでいるが斑紋ははつきり残っていた。

これまでも乾燥して度々失敗しているので湿度には特に留意し、今回は、1~2日おきに 1 回水を含ませた綿をおそうようにした。

19. I. 1963

Fig. 2, 幼虫の頃は、草木の葉を食し、形態も鱗翅目に似ているが、この頃からにわかには膜翅目の様相を呈してくるようである。

19. II. 1963

蛹化していることがわかる。

27. II. 1963



Fig. 2 アケビコンボウハバチ前蛹

眼部やや黒茶色化してくる。

1. Ⅲ. 1963

蛹の胸部が黒化する。

7. Ⅲ. 1963

羽化する。体長 12mm 位。

14. Ⅲ. 1963

飼育箱を活発に飛びまわる。

18. Ⅲ. 1963

活動にぶり、仮死状態になつているので、標本とする。

CIMBICIDAE の特長は、アンテナにあり、その名の示すように、棍棒状をなしているので、他のハバチ科のものから一見して区別できる。本種の場合もアンテナは7節からなり、末端の3節が膨大して棍棒状をなしている。

アオイラガの寄生蜂

近 藤 光 宏

(倉敷市住吉町)

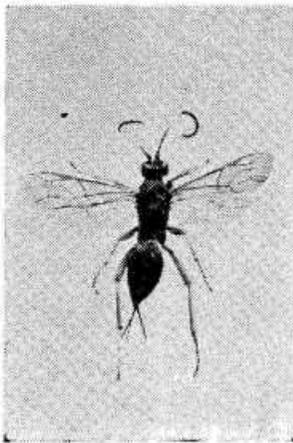


Fig. 1

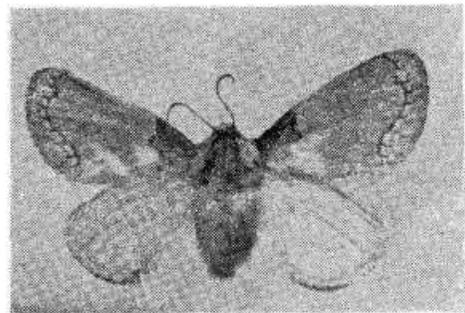


Fig. 2

Fig. 1 *Plectocryptus nohirai* UCHIDA

Fig. 2 *Parasa consocia* WALKER

筆者は、1. X. 1964 倉敷市福田町北畝の樹令20年になるポプラ並木の下で数十個の繭 *Parasa consocia* WALKER アオイラガを採集し、飼育びんの中に放置していたところ、10. X. 1964 前後数頭の天敵と思われる本種の羽化をみたわけである。

本種の生態については、既に岩田 (1941. 関西昆虫学会報), IWATA (1961. ACTA

HYM) , 及び MOMOI (PROC. ENT. SOC. WASHINGTON. in Press) で詳しく調べられている. 和名はまだつけられていない.

なお本種は, 所属を変更する必要がある, MOMOI (in Press) によつて新属を説定しているが, まだ発行されていないので, 旧属名のまま使用されている.

Fig. 1 は 10. X. 1964, 羽化したもので寄主 1 に対して, 1 の割りで寄生がみられる体長 14~16mm もある寄生蜂としては大型に部類する本種の写真である.

Fig. 2 は寄主アオイラガの成虫で, 31. V. 1965, に羽化したもので, 体長 15mm 内外.

筆者のこれまでの経験では, イラガイツツバセイボウ *Chrysis shanghaiensis* SMITH で知られる, イラガ *Cnidocampa flavescens* WALKER の繭は, 倉敷市のプラタナス, サクラ, カキノキ, などの地上部の枝や幹で見出されたが, アオイラガの繭は, ほとんどの場合, 根本に近い地表の土の中に, それも極くわずかに土をかぶつて見出される. ときとして太幹の樹皮の深いわれめとか, くぼみなどで採集された.

それにしても土中の繭に, 当寄生種はいかにして産卵するのであろうか, 大変興味深く思われる.

寄生種が飼育びんの中で羽化してまもないころ, 屋外 (繭を採集した付近) でも, 当寄生種を目撃することができた. 後を追つてみると, ポプラの樹間の地上をほうようにゆつくり進み, ときどきわずかにとびたつては, 何かを物色しているようであつた.

文末になりましたが, 本種について, いろいろとご指導いただきました兵庫農科大学, 桃井節也先生に厚くお礼を申し上げます.

おとしぶみ

シロトラカミキリを穴戸山神社で採る

1966年5月8日 川上郡川上町穴戸山神社の庭に通ずる坂道のサンショウの花から本種 *Paraclytus excultus* BATES 8頭を得ました. ちょうど最盛期と見え, トゲヒゲトラや, トガリバアカネトラなどと多数群がり, 中には花粉にまぶれ全身黄色のものまでいた. この日枯枝からナカジロサビ, ネジロ, アカネトラ, シロオビ等を採集した.

穴戸山神社は由緒ある古い神社で, 付近は臥牛山をおもわす大木がおい繁り, 近くを小さな谷が流れ, 昆虫のすみかとして申し分ない場所と思えた. (脇本 浩)

臥牛山のウンモンテントウ

1966年4月24日 本種 *Anatis ocellata halonis* LEWIS を2頭採集した. 小野氏の話によれば比較的良好であるとのことなので報告しておきます. 御教示をいただいた小野氏に感謝します. (脇本 浩)

ト　ン　ボ　雑　記

林　　憲　一

(都窪郡早島町矢尾)

1964年から1965年にわたり昆虫同好会の方々と県内各地を採集して歩いたので、色々の新知見を得たが校務に追われて未整理のまま山積していた。しかし、この中には記録にとどめておく必要なものもあることを考え、急いで整理して、ここに簡単なメモとして報告することにした。

1. ムカシトンボの記録

岡山県でのムカシトンボは、昔から勝山町の神庭の滝が有名で色々の文献で紹介されている。しかし、その他の記録としては次のようなものがみられるだけである。

○岡山県下のムカシトンボの産地 広瀬義躬 (すずむしVol. 2)

1947年6月1日、新見市草間絹掛の滝附近で1♂採集の記録。

○岡山と昆虫 片山豊八 (昭和34年)

苫田郡鏡野町泉山山麓及び真庭郡川上村の2ヶ所を記録。

○ムカシトンボ採集記 道信 順 すずむしVol. 9 (1959)

1959年5月10日、鏡野町泉山山麓で3♂と1♀を採集したことを記録。

○山陽昆虫案内 安江安宣 (昭和34年)

神庭の滝と草間の記録を紹介。

又、最近の記録としては次のものがある。

○新庄村の昆虫調査報告(その1) 重井 博他 すずむし Vol. 13, No. 2

新庄村内の土用、高下、田浪の三地区で多産することを記録。

○人形峠でウラン鉱ならぬムカシトンボを捕える。

ドクトル・ザーメン採集回顧録 すずむし Vol. 14, No. 2

上野原村人形峠附近で1♂を採集した記録。

その後、筆者が採集した記録は次のようである。

川上郡川上村芋ヶ谷 29. IV. 1964, 幼虫 1

阿哲郡大佐町伏谷 30. V. 1965, 幼虫 4

英田郡西粟倉村若杉峠 22. VII. 1965, 幼虫 1

なお、鳥取県黒坂で1965年5月23日、倉敷昆虫同好会の採集会が行われたとき、多数の成虫を発見、2♂を採集したことも隣辺の記録としておく。又、次のような驚くべき記録がある。

高粱市玉川 2. V. 1965, 1♀

これは、当時岡大附属中学校2年の田辺恒彰君が滝山方面に採集の途中採集したものである(標本は倉敷昆虫館に保存)。今まで、草間の記録さえ、周囲の環境から考えて多少生息を疑問視していたのであるが、玉川となると更に南に下り最南記録ということになる

しかし、筆者は直接現地へ行っていないので環境がどのようなところかは知らないが、この附近の地形から考えて、幼虫まで生息することはなく、おそらく増水で流された終令幼虫が偶然にもこの附近で羽化したものではないかと考えられる。

2. クロサナエその後の記録

クロサナエが中国地方で少いことは、広島の沢野先生もしばしば記録されていることである。筆者も新庄村の昆虫調査報告の中で土用の記録を岡山県下第2の記録として報告しておいたが、その後、調査するに従って少いながらも広く分布することが明らかとなってきた。そこで、その後の採集記録を報告しておく。

勝山町神庭の滝	29. IV. 1964,	1 ♂
鏡野町岩屋	10. V. 1965,	1 ♂
大佐町伏谷	30. V. 1965,	4 ♂ 1 ♀, 1幼虫, 3脱殻.

特に大佐町伏谷では、ダビドサナエ、ヒメクロサナエよりクロサナエが多いのに注目された。

3. ムカシヤンマの脱殻を探る

真庭郡新庄村野土路 24. V. 1964 2 脱殻

蒜山の明連溪谷を採集して野土路峠へ帰路をとり、野土路峠よりしばらく新庄村側へ下った道路端のアザミの葉の上に2箇のトンボの脱殻があることを同行の近藤光宏氏が発見された。早速探つてみるとムカシヤンマのものであり、しかも羽化後間もないものであることが分つた。そこで、附近に羽化して間のない成虫か、他の幼虫はいないものかと探してみたが、何分にも帰宅の時間がせまつていて発見できなかった。

附近は自然林を切り開いた道路が山の中腹を溪流ぞいに一本あるだけで、土中に穴をほり生息する同種の幼虫の生息条件には好適のところばかりである。時間さえあればと悔んでいるが、次回には必ず幼虫をとりたいものである。

ムカシヤンマについての現在までの記録は総社市豪溪のものが最も多く、その他では新見市草間、勝田郡勝田町、湯原町和田の4ヶ所である。倉敷昆虫館に保存されている標本のラベルも次のようである。

総社市豪溪	25. VI. 1952,	1 ♂	水野採集
	15. V. 1955,	1 ♀	安東採集
新見市草間	16. VI. 1957,	1 ♂	安東採集
湯原町和田	10. VI. 1952,	1 ♂	安東採集

4. クロスジギンヤンマを蒜山で採集

川上村明連溪谷 24. V. 1964, 1 ♂

1964年、蒜山の明連溪谷に入った時、10平方米位の湿地の上を飛翔しているギンヤンマを発見、採集したものである。今まで同種に関する記録は県南にかたより（筆者の「クロスジギンヤンマの記録」すずむし Vol. 13, No. 2 参照）、県北の記録は不明であつた。特に鳥取県との県境に近い高所で採集されたので記録しておく。

5. 二、三の羽化記録

ウスバキトンボ

1964年7月29日、早島町矢尾の自宅前の水田で多数のウスバキトンボが羽化しているのを発見した。時刻が午後3時頃であつたため羽化中のものはみられなかつたが、脱殻は無数にイネの茎や葉についており、羽化したばかりの成虫が無数に止まつて体の硬化をまつている状態であつた。

ウスバキトンボは熱帯系のトンボで成長が早く、2カ月位で羽化するのではないかと考えられているので、5月下旬に飛来した親によつて産卵されたものが羽化したものと考えられる。奈良の六山氏は9月下旬から10月上旬にかけて、八尾市立成法中学校のプールで多数の羽化を報告されているが、これは7月産卵のものではないかと考えられる。岡山地方でも7月中旬以降本種の個体数がものすごい状態になるが、6月以前の採集記録はないこのことから、南方より飛来する成虫は5月下旬に岡山地方に姿をみせることが考えられるから、今後、ウスバキトンボの早い記録を探ることが、本種の生活史を知るうえに重要であろうとかがえる。

ハッチョウトンボ

1964年6月8日総社市八代のハッチョウトンボの生息地へ出かけたところ、丁度羽化の最中に出会い、飛翔する多数の成虫と湿地から羽化する個体、無数の脱殻を発見した。

なお、成熟幼虫の多数も同時に採集することができた。脱殻は泥水面より1cm~10cm位の所でイヤニガナ等の植物に附着しており、高い所で15cm位のものであつた。

県南でのハッチョウトンボの羽化期の記録として報告しておく。

ヤブヤンマ

ヤブヤンマの岡山県での採集記録は殆んど8月から9月になつているが、羽化期は5月上旬頃であることが分つた。1964年5月10日、早島町矢尾の自宅の溜池で羽化したもので、詳細は「Gracile」(関西トンボ談話会誌)に報告しているが県南でもまだ寒い5月上旬に羽化するという点で記録しておく。

おとしぶみ

ツツジの花からミヤマルリハナカミキリを採る

1966年4月24日、高梁市臥牛山で採集したものの中に本種 *Kanekoa azumensis* MATSUSHITA et TAMANUKI 一頭がふくまれていた。

場所は臥牛山の中腹の日当りのよい場所のツツジの花をたたきあみして採つたものである。青野氏の話によれば、県下では珍しい種類とのことなので発表させていただきます。同定、御教示いただいた青野氏に感謝します。(脇本 浩)

津川でトビイロカミキリを採る

1966年5月23日津川中学校の裏山で本種 *Allotraeus sphaerioninus* BATES 一頭を記録した。(脇本 浩)

Maddester 雑言録 (5)

Maddesta の発刊と終焉について
 — すずむし 100 号 記念 に 思 う —

水野弘造

(宇治市戸ノ内日本レiyon小桜寮)

“すずむし”も通巻100号に達したそうでもまことにおめでたいことである。私は本会創立当初からの会員ではないが、創立後間もなく入会しているので、“すずむし”も創刊号から4冊を欠くのみで以後全冊を保存、欠号分も自分で複写したので一応全部揃えた恰好である。まとめて製本したこの会誌を時に思い出してはなつかしく、くつて読むのであるが、それにつけても創立以来営々と“すずむし”の発刊に努力された幹事諸兄の献身には全く頭の下る思いである。反面永く厄介になつていながら一度として編集などの手伝いもしなかつた自分の不精をふり返ると恥ずかしさに身も細る思いがするのであるが、会誌の編集、発行および会の運営など一見何でもなさそうなことが、いかにむづかしいことであるか、私自身の失敗談を少し語つて、“すずむし”編集委員諸兄への感謝のしるしに代えさせていただくと共に、若い方々の“すずむし”編集発行への積極的参加の呼びかけをしたい。というのは“すずむし”も現状のままでは編集陣の老令化とともに衰退の時期が襲つてくるおそれが充分にあると思うので、“すずむし”の活版印刷にまで発展したこの機をとらえて、あえて警告を発したいと思うのである。

「京都大学・虫と植物の会」は1956年5月15日に結成され、1963年につぶれてしまった。私が大学に入った年新入生ばかりで集つて作ったサークルであつた。従つて結成当初はグループ指導に馴れた先輩もなく、サークル運営に優れた人物も会誌の編集発行に手腕をもつ人物もいながつた。おまけに結成主導者で会長をしていたC君がしばらくして退会したので泡沫サークルの1つになりかけていたのであるが、会報の編集を引受けた鹿島君や数人の虫気違い連中のおかげで何とか持ちこたえ、その後は後輩なども入会して順調に発展していたのである。残念ながら事務後継者の養成をおろそかにしたため、創立当事者らの卒業と共に6年余であえなく崩壊の憂目を見なければならなかつた。全く惜しいことをしたのであるが、実は私達は後輩の指導をしなかつたわけではない。私達以上に採集や研究に熱心な後輩が数多く入会して活躍したのであるが、残念ながら虫に熱心なことと会の運営維持に熱心なこととは全く別のことであるらしく、いや見方を変えるならば、虫に熱心のあまり会の運営ができなくなるような人物に後を継がせたのが悪かつたのかもしれない。即ち会がつぶれた直接の原因は会の責任者である会誌の編集長が二代にわたつて相次いで南米に(コロンビアとブラジル)昆虫採集に出かけてしまつたことにより(勿論表向きには、アマゾン流域のサルの予備調査とか、南米の工業事情視察とか称するもつともらしい題目をかかげて出かけたのであるが、持つて帰つた虫の数々を眺めれば、大臣の“視察

旅行”と同意である), 大学内でサークル維持の事務手続きなど全くしようにも出来なかつたので, 仕方ないと云えば仕方のないことであつた。

一般にいかなる会であつてもその活動は会誌の発行状況によつて読みとれる。「虫と植物の会」では会誌を二種類発行した。全目録は次の通りである。

会誌名		発行年月	編集長	会誌名		発行年月	編集長
会報 (きんばい)	創刊号	1956・12	鹿島 毅	Maddesta	No. 5	1958・2	水野 弘造
“	Vol. 2	1957・12	水野弘造	“	No. 6	1958・11	“
“	Vol. 3	1960・10	土居祥克	“	No. 7	1959・4	古瀬 浩介
Maddesta	No. 1	1957・10	水野弘造	“	No. 8	1960・9	茂木 幹義
“	No. 2	1957・11	本吉総男	“	No. 9	1961・1	茂木・土居
“	No. 3	1957・12	水野弘造	“	No. 10	1962・2	数岡省一郎
“	No. 4	1958・1	“				

会誌の名について説明するならば, 会報創刊号は正確には「京都大学宇治分校昆虫植物採集友の会会報創刊号」という名であつたが, この名前の長たらしさは殺人的だというわけで, 会名の簡略化とともに会報の題目も改め, 昆虫にも植物にも共通してあるイメージを呼び起す「きんばい」がよかろうとなつたのであるが, この発案者は実は私であつた。一方, まじめくさつた会報は年一回で結構だから, 年数回は愉快で楽しいものを出そうじやないかというわけで「Maddesta」が生れた。命名者は本吉君で, この名は某受験雑誌社発行の英語辞典の名前「Besta」の盗用であるが, 誰も気付かなかつたようである。

Maddestaは10号で「きんばい」は3巻で終了してしまつたが, その両方共かなりの期間を私が編集長となつて事に當つた。編集長と云えば聞こえはよいが要するに原稿をたのんで回り, あるいは足らなければ自分で書き, 会費などはろくに集まらないから勿論ガリ切りから印刷・製本までを一人で行うのである。おかげでガリ版印刷物の製本技術など習得して, 物理学教科書の演習問題の解答集(トラの巻)などまで作つて学友仲間へ閤流しをやつて会の運営費をかせいだりもした。「Maddesta」No. 6の編集では69頁という大冊を1人で作つたので4ヶ月間というもの毎日それにかかり切りで, おかげで工学部では最も大切といわれる第3学年の学業の方はえらく後退してしまつて散々の成績になつたのであるが, 幸い落第だけは脱かれ今となつてはかえつて良い思い出である。私や数岡君のような工学部出身者を除くと編集長をやつた連中は皆偉くなつたようで, 本吉君は生物ウイルス研究所々員, 古瀬君は慶応義塾の生物教官, 土居君は国立科学博物館技官でキノコの権威, 茂木君は虫が本職になつて京大昆虫学教室で未だに研究中である。編集に直接タッチしなかつた者の中からも, 京大昆虫学教室の教官になつた水田君をはじめ, 農林技官になつた久野君や但見君, サル学の女流研究家竹田さんなどのような専門家が輩出しているのであるから, かなり人材豊富な会であつたことは確かで, 現在まで存続していたら「虫と植物の会」の日本の動植物学界に寄与する所も大きかつたであらうと全く残念である。崩壊のきざしは5代目編集長に茂木君になつた頃にすでに芽生えた。即ち現京大動物学教

室の中村一郎君が南方熱にとりつかれ、茂木君に伝染したため、会誌の編集などほつたらかして二人でフラフラと佐多岬など目指して放浪するような傾向があつた。1961年夏にはついに琉球列島めぐりをやつて、戦後初めてとか称する西表島の密林横断などまでやつて帰つてきた。その頃はここ2~3年馬鹿に、盛んな沖縄ブームもまだ一般化していなかつた時なので、彼らの採集品(イワサキコノハ、ヤエヤマムラサキ、ウラベニヒヨウモンモドキ、オオアオコメツキ、タイワンカブト、その他未だに種名不詳のカミキリなど)には皆目をみはつたものである。一番頭に來たのが南国は土佐の生れの土居君で、彼とても己に奄美大島の経験はあつたのだがオオシロモンセセリやツマベニチョウでは全く勝負にならないので、負けぬ気の彼はついに探険部の活動に便乗して1961年暮に南米コロムビアに出かけてしまった。半年後に持帰つた採集品は何とブリキ缶20箱にぎつしりと詰め込まれておりモルフオやドクチョウや発光コメツキは云うに及ばず、ワラジ程もあるゴキブリや20cmを越えるナナフシ、巨大なバツタ、タマムシからケシ粒程のウンカや微小甲虫に至るまで実に千差万別で一体全体全部整理できるものかどうかすら分らぬ程多数であつた(事実今日未だ整理できてない分が半分以上である)。しかもこれが毎日ジャングル内でメシを炊く時間だけを利用して集めたものだと説明であつた。これを見て一層頭に血が登つてしまったのが数岡君で、スペイン語の猛勉強を始めるや、何とか云う学生の海外研究団体の試験にパスしてついに南米の工業視察とか称してブラジルに出かけてしまった。皆「虫と植物の会」の事務上のことなど全く念頭に無くなつていたとみえてこの間に会はずぶれてしまったのである。彼の行つた先はブラジルであるがブラジル国内はもとより、アルゼンチンやボリビア、ペルーなど歩きまわつてきたので、旅費かせぎのアルバイトなどもやつたためにあまり虫採りはできなかつたそうであるが、それでもアマゾン下流の町中で採つてきた世界最大のヤガは屋外映画劇場のスクリーンに集つたやつを帽子で叩き落したものだそうで町中のうわさを集めたとか、握りこぶし程もあるカブトムシなどもアマゾン上流で土居君の採つたものよりも巨大でさすが熱帯低地のものだけはあると感心せざるを得ぬようなもので、ともかく日本のシケた昆虫採集とは比べものにならない。

というわけで「虫と植物の会」のつぶれたのは不振からでは無く、全く逆にバイタリティーに富む連中が輩出しすぎて、もはや小さなサークルの存続など問題でなくなつたことに原因があるとも云えよう。それにしても、かくも雄大なスケールで活躍した連中の採集記や体験記、調査報告が「Maddesta」や「きんばい」に掲載されることなく埋れてしまったのは、学生生活を「虫と植物の会」と共に過した私にとって真に残念至極であり大抵のことには諦めめよい私も彼らに会うとぐちをこぼすことになるのである。

要約するならば、会の運営者は、会の発展ということ以上に運営の後継者の育成に努力しなければならぬということになるろうか。会が隆盛になりすぎるとかえつて衰退の危険も増すものであり、われわれ倉敷昆虫同好会員一人一人が自覚すべきことではないかと思われる。

交 換 会 誌

誘蛾燈 No. 26 誘蛾会
 駿河の昆虫 No. 48—56 静岡昆虫同好会
 ちやっきりむし 6号 ”
 Nature study Vol. 12 No. 5—12 大阪自然科学研究会
 愛媛の自然 8巻 8号~12号 愛媛自然科学教室
 Odonata No. 18, 19 日本蜻蛉同好会東海支部
 関西自然科学 18号 関西自然科学研究会
 広島虫の会雑報 第11, 12号 広島虫の会
 昆虫研究 No. 9—13 函館昆虫研究会
 New Insect Vol. 10 No. 28 長野昆虫同好会
 WORMSHIP No. 85, 86 北九州昆虫趣味の会
 アルポ No. 21 鹿児島昆虫同好会

バックナンバー在庫品

1966・8・9調べ

1巻 なし
 2巻 No. 5 (4部) 30円
 3巻 なし
 4巻 No. 2 (4部) No. 11 (1部) 30円
 5巻 No. 1 (5部) No. 2 (2部) No. 4 (1部) No. 8 (5部) No. 9 (3部)
 No. 11 (3部) No. 12 (10部) 30円
 6巻 なし
 7巻 No. 3 (1部) No. 4 (5部) 80円
 8巻 No. 1 (7部) No. 2 (8部) No. 3 (7部) No. 4 (5部) 80円
 9巻~16巻 No. 1~No. 4 (各号多数) 80円

送料は別

編 集 後 記

100号記念号／気の遠くなるような数字と云えば、またオーバーなどお叱りを受けるかも知れません。けれども、私達にとりましては、よくも続きも続いたものよと今更の如く長い時間の積重ねを振り返って見て、感無量といったところです。

まさに“喜びも悲しみも幾年月”で、一喜一憂、時には本会も挫折しかけたことも一度ならずありました。それが今、顧問諸先生をはじめ会員諸氏のご活躍、ご協力のもとに、無事100号を迎えることができ、編集を終って、その喜びを嘸みしめています。

100号の為に顧問の先生方からは、“よろこびの言葉”などを寄せていただき、また会員諸氏からも、沢山の投稿をいただき、本会、最近の業績の集積号の感があります。

今、本号を受取られて、新しいスタイルのもとの久方振りのずっしりとした重量感を味わっていただいていることと思います。

この100号を迎えた歴史を、謙虚にさまやかな誇りとすると共に、これを本会の大きな節として、これからも全会員の力でいろいろな意味での良い方向に進展させ、胸をはって大きくはばたいて行きたいと考えます、ご協力をお願いしてペンを置きます。〔幹事〕

医 療 法 人

重 井 病 院

倉敷市幸町 TEL (2) 3655

ずすむし Vol.16, No. 2, 3, 4, December 31, 1966

倉敷昆虫同好会発行

連絡事務所 倉敷市幸町(倉敷昆虫館内)
本部(倉敷市住吉町岡山大学大原農業生物研究所内)